

令和7年度

**高校生の
固定的性別役割分担意識等
に関する調査報告書**

令和8年3月

青森県男女共同参画センター

(指定管理者：未来へつなぐネットあおもりグループ)

目次

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| 第1章 | 調査概要 | 1 |
| 1.1 | 調査の背景 | 1 |
| 1.2 | 調査の目的 | 1 |
| 1.3 | 調査対象者 | 1 |
| 1.4 | 調査方法 | 1 |
| 第2章 | 調査結果 | |
| 2.1 | 回答者の属性 | 2 |
| 2.2 | 家事分担 | 3 |
| 2.3 | 高校卒業後の進路 | 4 |
| 2.4 | 家庭・コミュニティのことに 関する考え | 7 |
| 2.5 | 職場に関する考え | 8 |
| 2.6 | その他（性格・学校・進路など） の考え | 8 |
| 2.7 | 性別に基づく言動 | 9 |
| 第3章 | 調査結果のまとめと考察 | 20 |
| 3.1 | 回答者の属性 | 20 |
| 3.2 | 家事分担 | 21 |
| 3.3 | 高校卒業後の進路 | 21 |
| 3.4 | 家庭・コミュニティのことに 関する男女の意識 | 26 |
| 3.5 | 職場に関する男女の意識 | 29 |
| 3.6 | その他（性格・学校・進路など） の男女の意識 | 31 |
| 3.7 | 性別に基づく言動 | 33 |
| 3.8 | まとめ | 35 |
| | 参考文献 | 37 |

添付資料：アンケート票

図表目次

| | | |
|-------|--|----|
| 図表 1 | 性別 | 2 |
| 図表 2 | 現在の居住地..... | 2 |
| 図表 3 | 自身の家で家事（料理・掃除・洗濯など）をする人..... | 3 |
| 図表 4 | 家事代行サービスや食材宅配サービスを利用する頻度..... | 3 |
| 図表 5 | 高校卒業後の進路..... | 4 |
| 図表 6 | 県外または県内を選択する理由..... | 6 |
| 図表 7 | 家庭・コミュニティに関するあなたの考え..... | 7 |
| 図表 8 | 職場に関するあなたの考え..... | 8 |
| 図表 9 | その他に関するあなたの考え..... | 8 |
| 図表 10 | 周囲に「男性なんだから」「女性なんだから」と言われた経験の有無. . . | 9 |
| 図表 11 | 「男性なんだから」「女性なんだから」と誰に言われたか | 9 |
| 図表 12 | 性別に基づく役割や偏見の情報発信を感じたことがあるもの | 10 |
| 図表 13 | 6 圏域別の回答数 | 20 |
| 図表 14 | 市部・郡部別の回答数 | 20 |
| 図表 15 | 進路別の県内外希望割合 | 21 |
| 図表 16 | 高校卒業後の進路(男子) | 22 |
| 図表 17 | 高校卒業後の進路(女子) | 22 |
| 図表 18 | 県外進学の原因 上位 3 項目 | 23 |
| 図表 19 | 県内就職の原因 上位 3 項目 | 23 |
| 図表 20 | 県外進学の原因(男子) 上位 3 項目 | 24 |
| 図表 21 | 県外進学の原因(女子) 上位 3 項目 | 24 |
| 図表 22 | 県内就職の原因(男子) 上位 3 項目 | 25 |
| 図表 23 | 県内就職の原因(女子) 上位 3 項目 | 25 |
| 図表 24 | 「自分の希望ではないが、そうせざるを得ないから」と回答した 回答者の希望する進路..... | 26 |
| 図表 25 | 「男性は仕事をして家計(生活にかかる費用)を支えるべきだ」男女比 ... | 27 |

| | | |
|-------|---|----|
| 図表 26 | 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」男女比 | 27 |
| 図表 27 | 「男性は結婚して家庭を持って一人前だ」男女比 | 28 |
| 図表 28 | 「家を継ぐのは男性であるべきだ」男女比 | 28 |
| 図表 29 | 「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」男女比 | 29 |
| 図表 30 | 「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」男女比 | 30 |
| 図表 31 | 「女性は感情的になりやすい」男女比 | 31 |
| 図表 32 | 「女性がか弱い存在なので、守らなければならない」男女比 | 31 |
| 図表 33 | 「男性は人前で泣くべきではない」男女比 | 32 |
| 図表 34 | 「青森県には女性の活躍できる場が少ないと思う」男女比 | 32 |
| 図表 35 | 「性別に基づく役割や偏見を押し付けられたり、そのような場面を見聞きした経験がある」男女比..... | 33 |

第 1 章 調査概要

第1章 調査概要

1. 1 調査の背景

地方における若者の県外流出が課題となるなか、本県においても、2023年の20～24歳の転出超過率が男女ともに全国ワースト1位になるなど、喫緊の対応が必要な状況となっている。

若者が地方から流出する要因として、雇用環境や就職先の選択肢の少なさ等の経済的要因のほか、当センターが実施した「女性の県外流出に関する調査」※において、地方の閉鎖的な社会や古くからの慣習、しきたりに対する拒否感を示す意見が多く挙げられた。これらのことから、固定的性別役割分担意識の根強さや、無意識の思い込みによる生きづらさも、若者の県外流出の一因となることが推測される。

※「女性の県外流出に関する調査」（令和4年度青森県男女共同参画センター実施）

1. 2 調査の目的

男女共同参画の観点から、若者が活躍でき、住み続けたいと思う環境を整備するために、当事者である若者の性別役割分担意識の実態と、居住地選択の傾向等について調査し、今後の取組の参考資料とすることを目的とする。

1. 3 調査対象者

青森県内の全日制公立高等学校の2年生

1. 4 調査方法

(1) 抽出方法

サンプルの抽出は行わず、全数調査を実施（約8,800人）

(2) 回答方法

インターネット回答（Googleフォーム）

(3) 調査協力

青森県県民活躍推進課

(4) 調査期間

令和7年10月6日～令和7年10月31日

(5) アンケート票の構成

①あなたについて

②家庭生活について

③今後の居住地について

④あなたの考えについて

⑤性別による役割や偏見を押しつけられたり、そのような場面を見聞きした経験について

第2章 調査結果

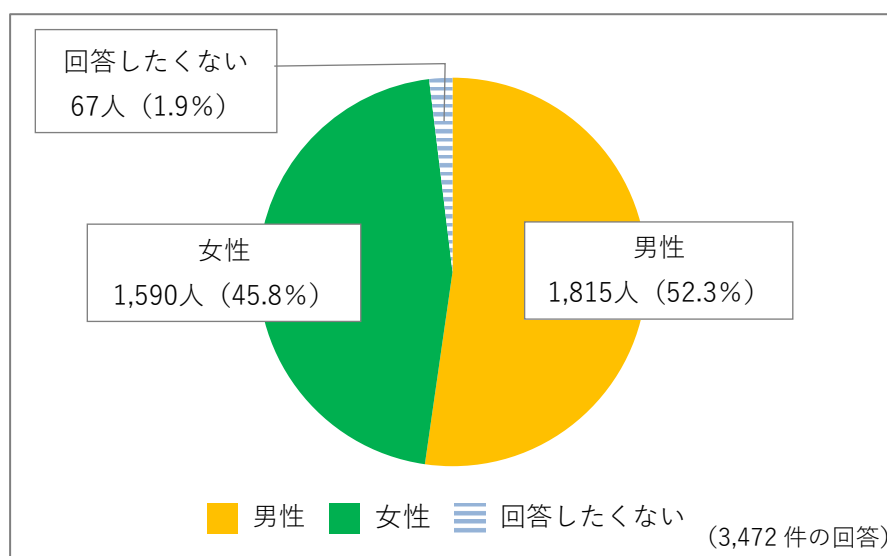
第2章 調査結果

2. 1 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別は男性が52.3%、女性が45.8%、回答したくないが1.9%であった。

図表1 性別



(2) 現在の居住地

回答した高校2年生の現在の居住地として八戸市が666人と最も多かった。

図表2 現在の居住地

| 居住地 | 人 | 居住地 | 人 | 居住地 | 人 | 居住地 | 人 |
|-------|-----|-------|----|------|----|------|----|
| 八戸市 | 666 | おいらせ町 | 55 | 六ヶ所村 | 27 | 外ヶ浜町 | 8 |
| 青森市 | 619 | 野辺地町 | 55 | 五戸町 | 26 | 新郷村 | 6 |
| 弘前市 | 444 | 板柳町 | 50 | 大鰐町 | 23 | 今別町 | 3 |
| 十和田市 | 244 | 三沢市 | 48 | 田舎館村 | 20 | 大間町 | 2 |
| 五所川原市 | 187 | 南部町 | 48 | 鱒ヶ沢町 | 19 | 西目屋村 | 2 |
| むつ市 | 182 | 東北町 | 41 | 三戸町 | 19 | 風間浦村 | 2 |
| 黒石市 | 110 | 藤崎町 | 39 | 東通村 | 18 | 佐井村 | 1 |
| 平川市 | 108 | 階上町 | 36 | 深浦町 | 11 | 無回答 | 11 |
| つがる市 | 106 | 中泊町 | 31 | 田子町 | 9 | | |
| 鶴田町 | 63 | 六戸町 | 30 | 横浜町 | 9 | | |
| 七戸町 | 56 | 平内町 | 29 | 蓬田村 | 9 | | |

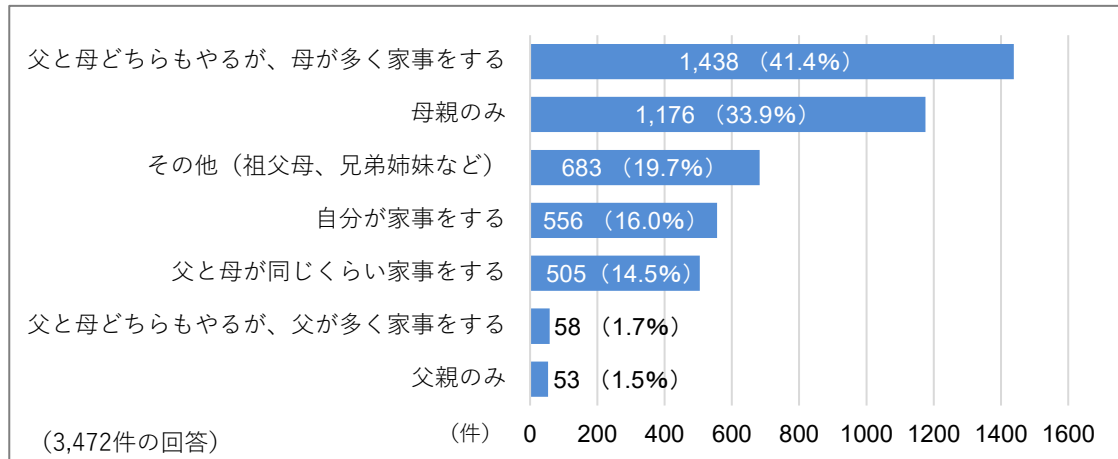
(3,472件の回答)

2. 2 家事分担

(1) 家庭で家事（料理・掃除・洗濯など）を主に担う人

自身の家で主に家事を担う人について、「父と母どちらもやるが、母が多く家事をする」が最も多く41.4%、次いで「母親のみ」が33.9%であった。

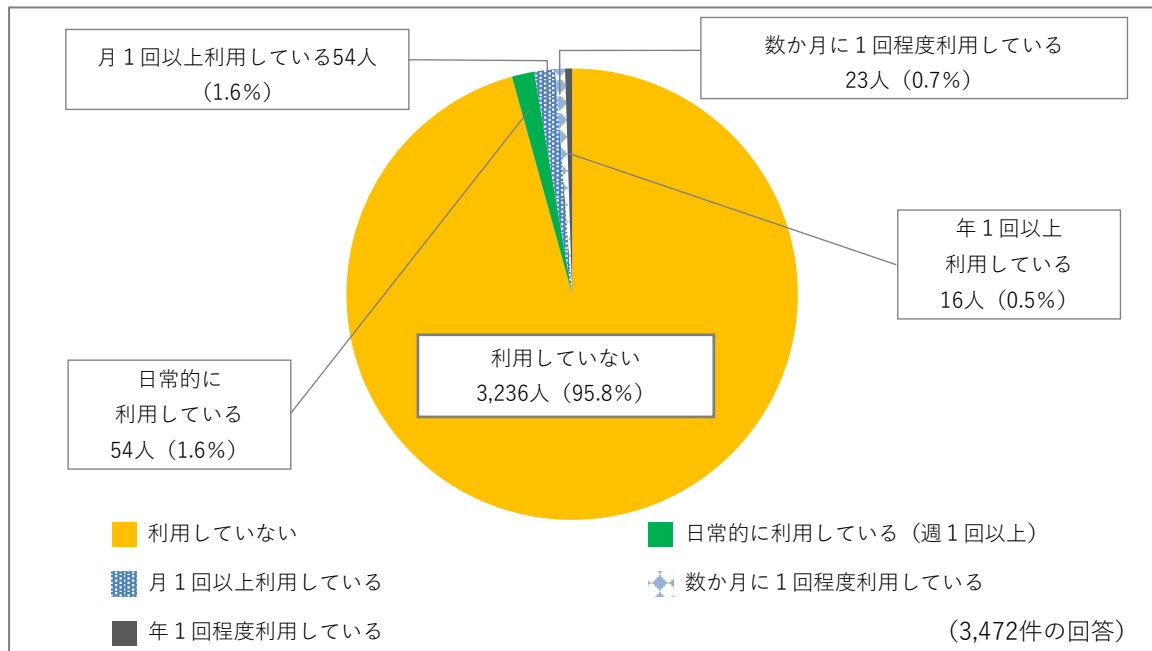
図表3 自身の家で家事（料理・掃除・洗濯など）をする人



(2) 家事代行サービス^{※1}や食材宅配サービス^{※2}を利用する頻度

「利用していない」が95.8%と最も多く、次いで「日常的に（週1回以上）利用している」と「月1回以上利用している」が1.6%、「数か月に1回程度利用している」が0.7%、「年1回以上利用している」が0.5%であった。

図表4 家事代行サービスや食材宅配サービスを利用する頻度



※1 家事代行サービスとは：家事のプロが依頼者の家庭に訪問し、家事を代わりに行うサービス

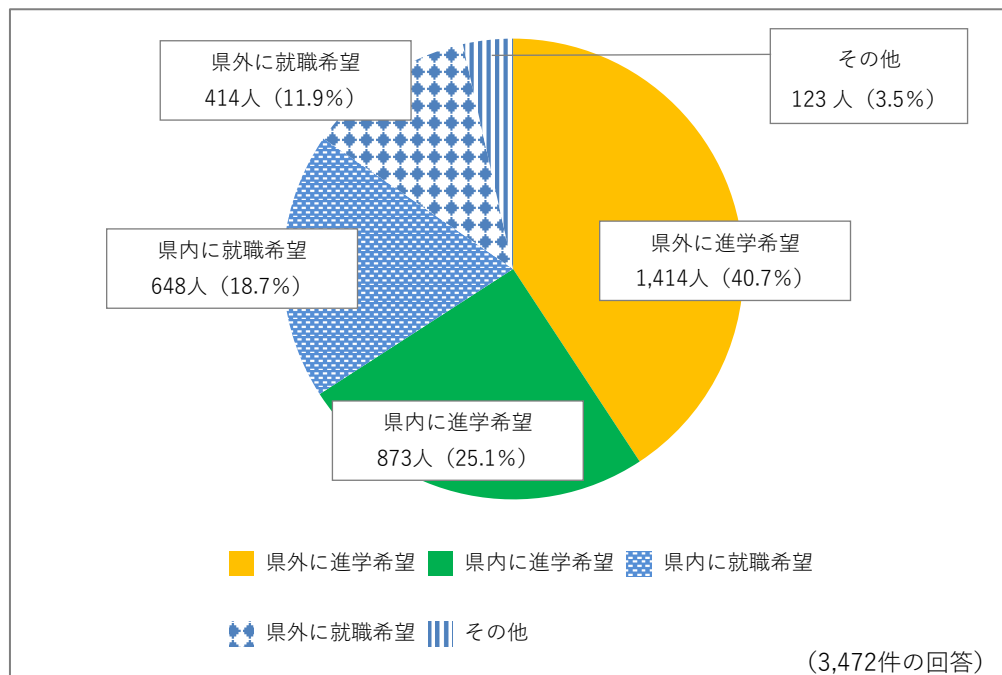
※2 食材宅配サービスとは：特定の食材やミールキット（レシピや、そのレシピに必要な食材、調味料などがセットになった商品）など定期的に配達してくれるサービス

2.3 高校卒業後の進路

(1) 高校卒業後の進路割合

高校卒業後の進路について、「県外に進学」が最も多く40.7%、次いで「県内に進学」が25.1%、「県内に就職」が18.7%、「県外に就職」が11.9%であった。

図表5 高校卒業後の進路



その他、高校卒業後の進路について以下のような回答がなされた。

| |
|--|
| <p>未定 (62 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷っている ・高卒で就職するか大学通いながらアルバイトするか ・自分が進学したいのか就職したいのかわからない ・自分を受け入れてくれるところならどこでも |
| <p>就職だが、県内か県外かは未定 (20 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内就職か県外就職か迷い中 ・就職したいが県内か県外か決めていない |
| <p>進学だが、県内か県外かは未定 (9 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学を県内か県外どちらにするか決まっていない |
| <p>県内外未定 (7 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内県外どちらでも |

専攻科 (11件)

- ・看護専攻科に進みます
- ・看護科卒業後、看護専攻科2年

その他

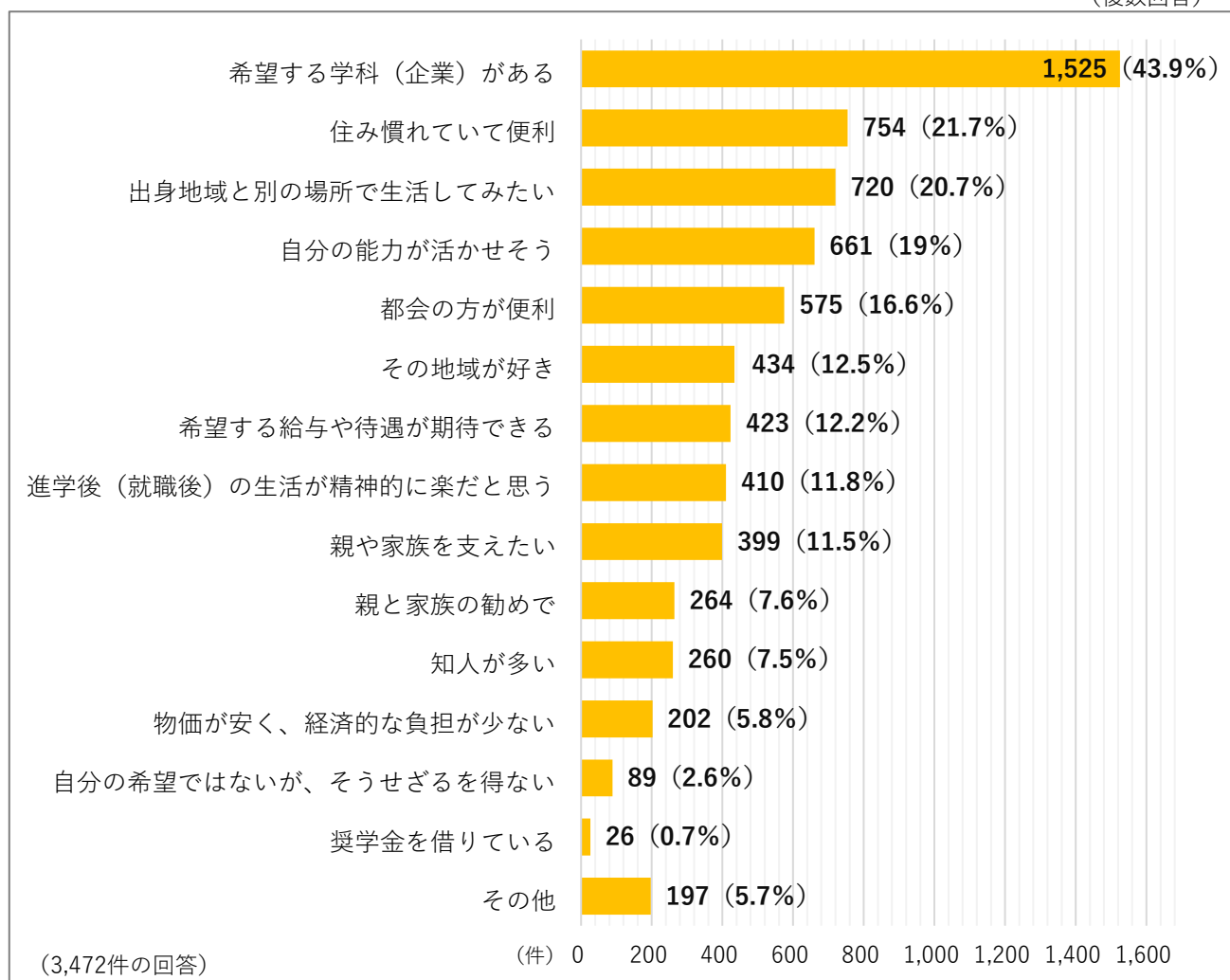
- ・県内だが、就職か進学かは未定
- ・保育士かダンスの先生
- ・3年間は青森でアルバイトをしてお金を貯めて、将来はディズニーキャストになりたい
- ・公務員試験を受け消防試験を受けたい
- ・県内で働いてから県外で働きたい
- ・国家公務員なので東北地方
- ・工業系の私立か国立の大学
- ・仕事をしながら野球
- ・通信制の大学
- ・自動車学校
- ・柔道整復師
- ・音響の仕事
- ・専門学校
- ・東北地方
- ・漫画家
- ・海外
- ・警察

(2) 進学希望者及び就職希望者の県外または県内を選択する理由

県外または県内を選択する理由として「希望する学科（企業）がある」が43.9%と最も多く、次いで「住み慣れていて便利」が21.7%、「出身地域と別の場所で生活してみたい」が20.7%と続いた。

図表6 県外または県内を選択する理由

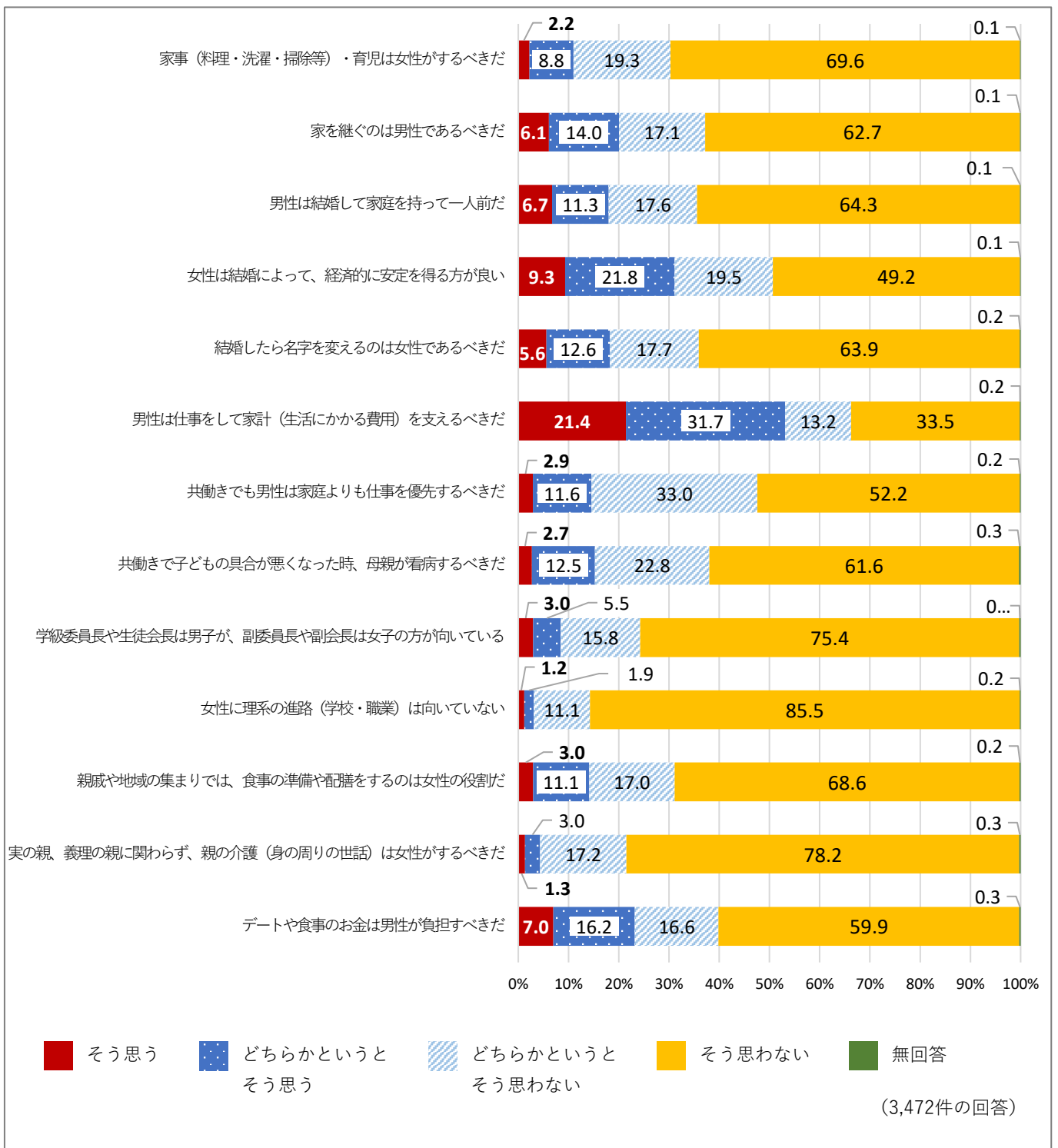
(複数回答)



2. 4 家庭・コミュニティのことに関する考え

「そう思う」と答えた割合について「男性は仕事をして家計（生活にかかる費用）を支えるべきだ」が21.4%と最も多く、次いで「女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い」が9.3%、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」が7.0%と続いた。

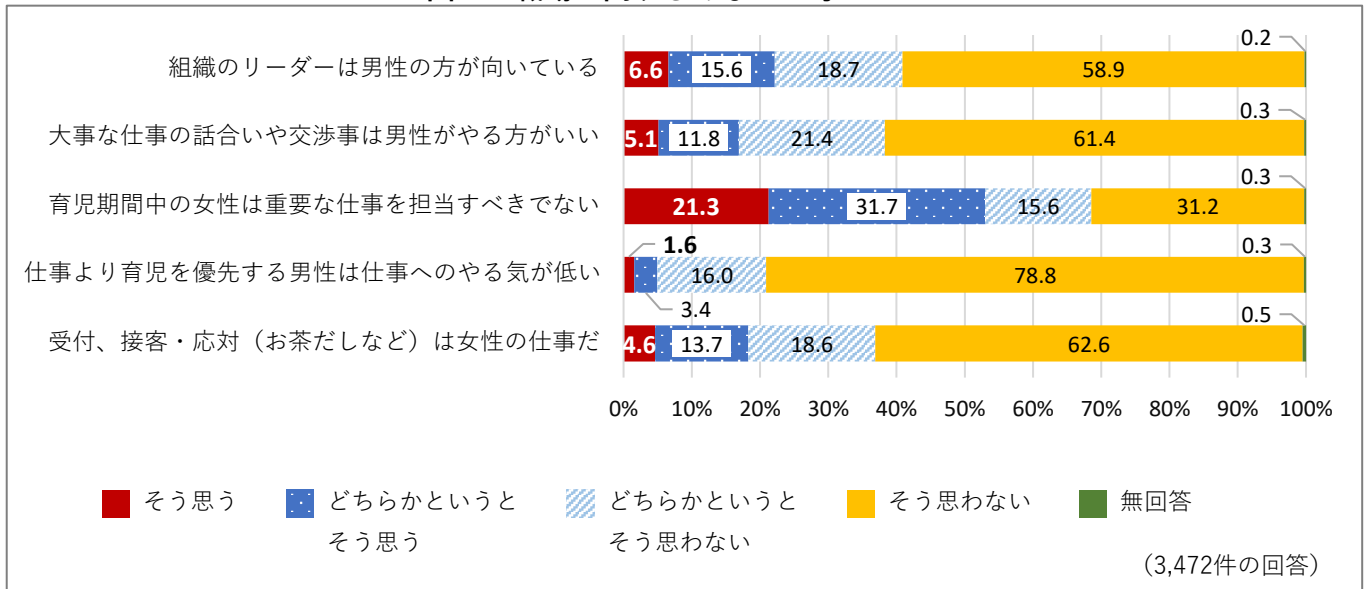
図表7 家庭・コミュニティに関するあなたの考え



2. 5 職場に関する考え

「そう思う」と答えた割合について「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」が21.3%と最も多く、次いで「組織のリーダーは男性の方が向いている」が6.6%、「大事な仕事の話合いや交渉事は男性がやる方がいい」が5.1%と続いた。

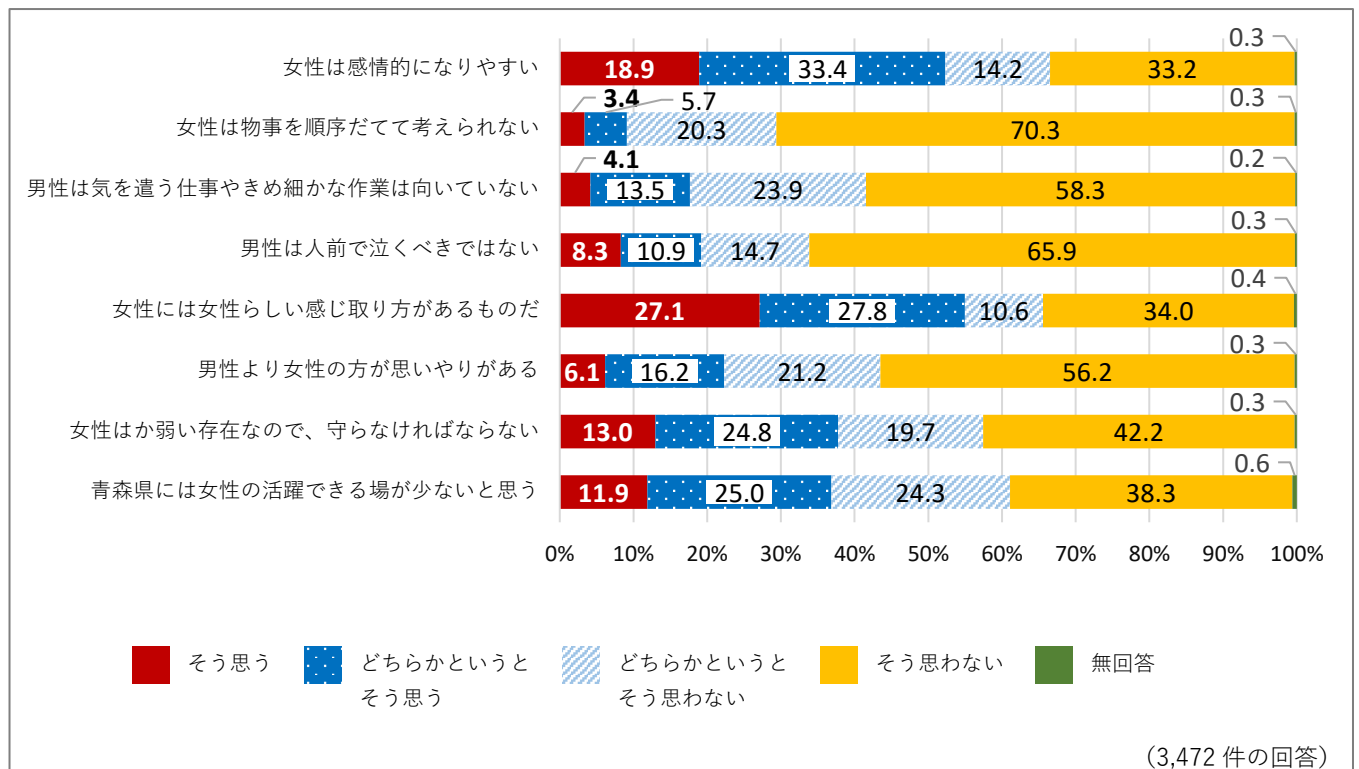
図8 職場に関するあなたの考え



2. 6 その他（性格・学校・進路など）の考え

「そう思う」と答えた割合について「女性には女性らしい感じ取り方があるものだ」が27.1%と最も多く、次いで「女性は感情的になりやすい」が18.9%、「女性がか弱い存在なので、守らなければならない」が13.0%と続いた

図表9 その他に関するあなたの考え

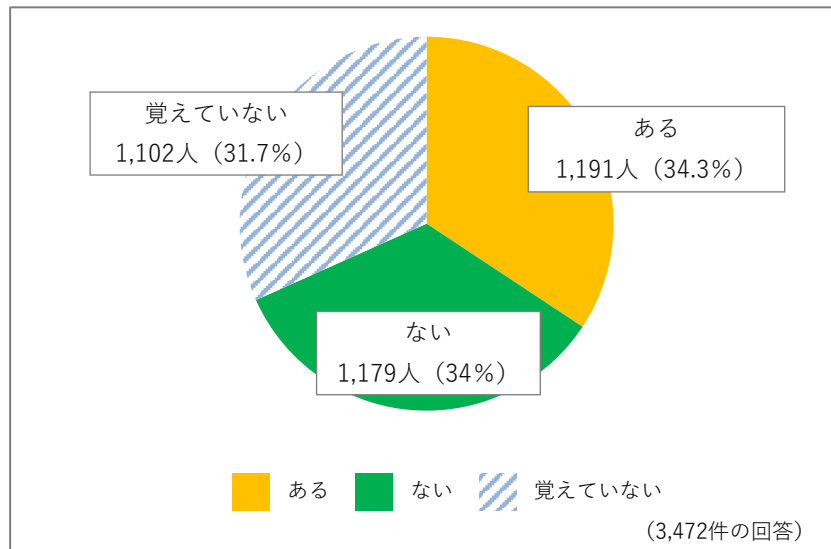


2. 7 性別に基づく言動

(1) 性別に基づく役割や偏見を押しつけられたり、そのような場面を見聞きした経験について

周囲に「男性なんだから」「女性なんだから」と言われた経験の有無について、「ある」が34.3%、「ない」が34%、「覚えていない」が31.7%であった。

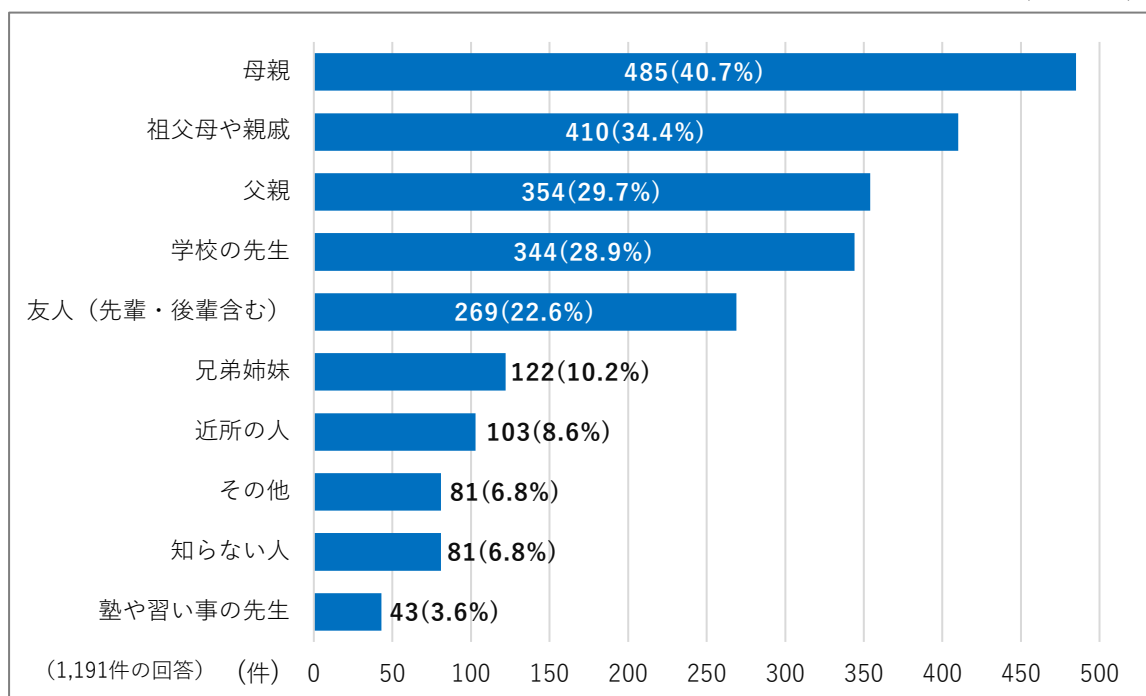
図表 10 周囲に「男性なんだから」「女性なんだから」と言われた経験の有無



(2) 性別に基づく役割や偏見を発信した人物

調査対象者に対して性別に基づく役割や偏見を発信した人物について、「母親」が40.7%と最も多く、次いで「祖父母や親戚」が34.4%、「父親」が29.7%、「学校の先生」が28.9%、「友人（先輩・後輩含む）」が22.6%と続いた。

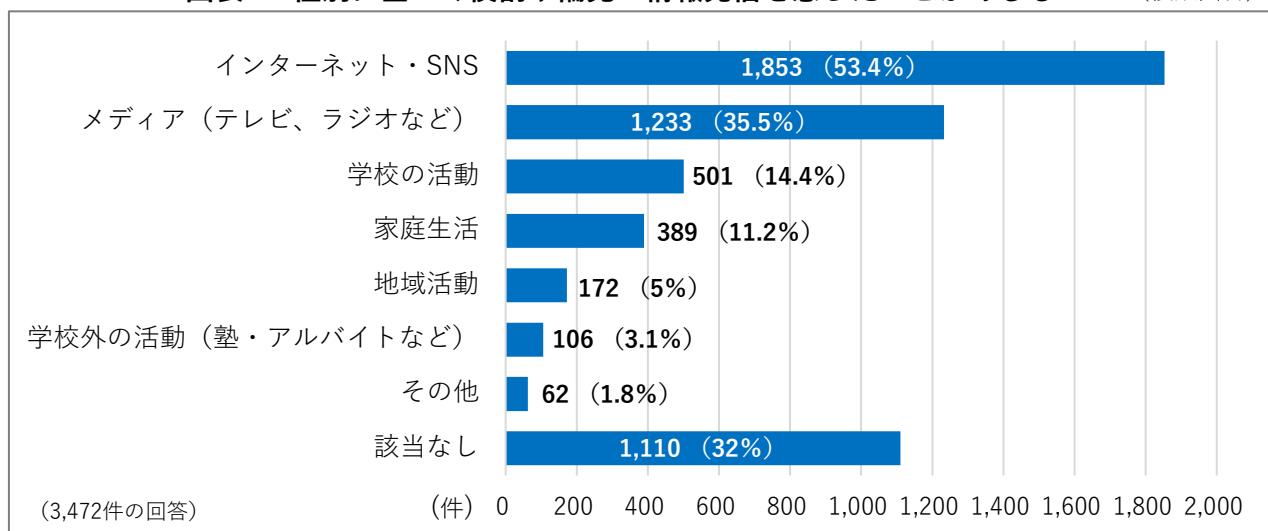
図表 11 「男性なんだから」「女性なんだから」と誰に言われたか (複数回答)



(3) 性別に基づく役割や偏見の発信を感じたもの

「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」という情報発信を感じたことがあるものについて、「インターネット・SNS」が53.4%と最も多く、次いでメディア（テレビ、ラジオなど）が35.5%、「学校の活動」が14.4%と続いた。

図表 12 性別に基づく役割や偏見の情報発信を感じたことがあるもの (複数回答)



(4) 経験に関する自由記述

男性だから・女性だからという理由で偏見だと思われることを言われたり、態度に出されたり、違和感を覚えたりした経験についての自由記述のうち主なものを以下に紹介する。

立ち居振る舞い・身だしなみ・体型 (70件)

| |
|---|
| 男子 |
| 「男なんだから虫を捕まえろ」という論理的に誤った推論の下、虫を捕獲させられたこと。 |
| 両親に男だからああしろ、こうしろ言われたりしました。知らない人からも下校中に言われた経験があります。怖かったです。 |
| 男なんだから外で元気に遊びなさい、男なんだから男の子と話みなさいなどといった内容を言われたことがある。 |
| みんなの前に出て何か芸を披露する。 |
| 面白いことを言えと言われて振られるのは男子。 |
| 髪を乾かしたり、化粧水をつけたりしていたら男なのに褒められた。 |
| 男なのに女よりも筋力が無いなんてダサい。 |
| 男性なら髪を短くしろと言われたことがある。 |
| 「男なんだからもっと飯食え」みたいなことを言われたことがある。 |
| 男なんだから強くあれ。 |
| 男性でも化粧は堂々としていいと思う。 |
| 男性だからスキンケアなんていらぬといわれた。 |

| |
|---|
| 女子 |
| 小学生の時に、男子なのに給食を残すのは男らしくないと言われている子がいた。 |
| 身長などの体のこと。 |
| 女で背が大きいと可愛くないと言われた。 |
| 母親や祖父母は私に女性らしい言葉を使って、上品に振る舞ってほしいと言った。あとは可愛らしい服やカバン、靴などを勧めてくる。正直男性ものの方が好きだし、女性らしいものはあまり好きじゃない。 |
| 性格について女の子だからお淑やかにかとか、スカートをすすめられること。 |
| 私は体も心も女で、可愛くありたいと思っているから、校則を守るのは前提として、日々身嗜みなどを意識している。しかし、そんなに気を使ってどうする、前髪も顔周りの髪もあげてピンで止めていればスッキリしていて、それが女子高校生らしさだ。とその考えが正しいかのように言われた時は、なぜ考えを押し付けなければいけないのかと、とても不快に思った。今は昔からの常識が変わってきている時代だから、今時の子は、と言うよりも前に(もちろんまだ足りていない事もあるが)、自分の中の常識をアップデートしてほしいと強く願っている。 |
| 髪を切ったとき、女の子なのに短いねとか男じゃんとかと言われ、私の自由だからわざわざ本人に言わなくてよくない?と思った。 |
| 常に品があるように振る舞わないとすぐに下品と言われる。楽しく笑っていても品がないと言われる。 |
| 座り方で少し足が開いているだけでも、女性は閉じるべきなどと指導されていますが 足を閉じるのにも少し力が入っているためずっとは困難。 |
| 女性だから一人称は「私」以外にするのはおかしい、痛々しいと言われたり、大声で笑ったり目立ったことをするのは変だと言われたりした。 |
| 女性だから化粧をしなければいけないという考え。 |
| 私は短髪なので伸ばしたらとか可愛いことしたらとか言われたりしました女の子だからとか言われたら結構嫌な感じします。 |
| 母が義理の母にそのようなことを言われていた。テレビでも女性は家事育児、男性は仕事といったことを言っていた。 |
| 女性だから制服のスラックスをはいてはいけないといわれた(制服は女子はスラックスをはくのはお任せという校則)。 |
| 髪が長くて邪魔で切ろうとしていた時、折角女の子なんだから長い髪を大事にきなさいと言われたことがあった。 |
| 髪をツーブロックにしていた時期に多数の年寄りから男の子扱いされ、トイレに入る場面などでイラついた。 |
| 女性なんだからお行儀よくきなさい。 |
| 意見を言っただけなのに女だから口出すとか静かに座ってろとか言われたことがある。 |
| 女の子だから大人しくきなさいと言われて、女の子に限った話ではないと思った。 |
| 椅子の座り方や、制服のスカートなどを、女性だからお淑やかにしろと言われた。 |
| お父さんと口喧嘩したときに女子らしい言葉遣いをきなさいって言われた。 |
| 自分の発言に関して女性らしい口調で話をしてと言われたことがある。 |
| 式中に足を開いてると女の子なんだからちゃんと閉じなさいと言われた。 |

| |
|---------------------------------------|
| おしとやかにしなさい、など。 |
| 女の子なんだからそんな座り方はダメ。 |
| 女の子なんだからガニ股で歩かない。 |
| 女の子なんだからもっとおしとやかにしなさいと祖母に言われた。 |
| 女の子だからかわいくしなきゃねーと言われて、なぜ?と思った。 |
| 身だしなみや言動を女なんだから直せといわれたことはある。 |
| 服装が男っぽいといわれた。もっと可愛い服を着ろと言われた。 |
| 一人称が俺と言うと「女なのに?」と言われた事がある。 |
| 小学生の時に祖母にスカート履きなさいと怒られた。 |
| 女性なんだからもっと柔らかく話したらと言われたこと。 |
| 女性だからかわいいものを身につけなければいけない。 |
| 女の子なんだから髪は長い方が可愛いと言われた。 |
| 女なんだから言葉遣い気をつけろって言われた。 |
| 女だから髪型は長くあるべきとか、ありました。 |
| スカートで足を広げてたら閉じろと言われた。 |
| 女性だから、あぐらをしてはいけない。 |
| あぐらをかいたら直された。 |
| 制服でスラックス履きたいって親に言ったら男の子になりたいの?って言われた。 |
| ズボンを履く、髪をショートヘアにするなど。 |
| 女性なんだから身なりをきちんとしなさい。 |
| おんなは男にしたがっているということ。 |
| 女の子らしい態度と言動を心がけなさい。 |
| 女子力がないとか。 |

力仕事に関すること (26件)

| |
|--|
| 男子 |
| クラスメイトに「お前は男だから力仕事ができる当然。」と言っているかのような態度をとられ、私は「私は男だが力は弱いのに、なぜ理解しないのか。」と思いき心を挫かれたという経験。 |
| 学校で、男性だからという理由で物を運ぶ仕事を全てやらされることがある。全部男子がやるのではなくできるものをやれば良いと思う。男子の方が怒られやすい。 |
| 力仕事を男だからと任せられるとそばで見ている女子に腹が立つ 男だから稼げとかも腹立つ女も稼げよと思う。 |
| 椅子の片付けとかなら女子だって出来るのに男子にだけやらせるのは不公平では? |
| 男性なんだから力仕事をするのは当たり前だと言われたのに対し違和感を持った。 |
| 力仕事をしていて休憩していたら「男だから休むな」といわれたことがある。 |
| 小学生のとき男性だから重いものを持たされたことは違和感を覚えた。 |
| 男だから力仕事という固定観念に違和感を覚えた。 |
| 男子は重いもの運んでと言われて不快に感じた。 |
| 手伝いで男性だから手伝えとか言われた。 |

| |
|--|
| 女子 |
| 男子だからという理由で力仕事をさせられていたり、女子だからという理由で装飾を任されたりした事がある。 |
| 重いものを持つのは男性がやる。 |
| 女性だから、力仕事は男子に任せておけばいいと言われたこと。 |
| 女子は力仕事をしなくてもいいと言われた。 |
| 重い荷物を運ばないといけない時に男性優先で手伝いを頼んでいた。 |
| 男性だから重い荷物を持つのような発言。 |
| 重い荷物を運ぶときにいつも呼ばれるのは男子なこと。持ってきた荷物を見た感じ女子でも余裕で持てそうなのにわざわざ男子である必要はないのではないかと感じた。 |
| 学校の先生が体育の授業の時に女子は重いもの持てないから男子がやってみたくて指示するのは違う気がする女子が完全になめられているのがおかしいなと思う。 |
| 男性だから力仕事をしろと言われているのを見たとき。女性でも力持ちはいる。 |
| 力仕事を女性でもできる内容なのに、任せてもらえなかった。 |
| 女子だから力ないでしょと言われたこと。 |

「男は泣くな」と言われた経験 (21件)

| |
|---|
| 男子 |
| 保育園の頃膝を擦りむいて泣いていたらお父さんに「男ならわんわん喚くな、男泣きしろ」と言われました。 |
| 男は泣くなとかを過去に言われたりした、それは、差別なんじゃないかなと思った。 |
| 幼少期に男だから泣くなと殴られたり正座させられたりする事が多々あった。 |
| 泣きたくなって泣いたら、「男のくせに泣くな！」とお父さんに言われた。 |
| 親に怒られた時とかに『男だから泣くな』と感情否定された事があった。 |
| 男は泣くなってよくないですよ。男も涙腺ありますよ。 |
| 些細なことで泣いていたときに、「男でしょ」と言われた。 |
| 小学生のころ泣くたびに「男なのに泣くな」って怒られた。 |
| いじめられて泣いていたら、男なら泣くなと言われた。 |
| 泣きたい時に泣くな言われてイライラした。 |
| 感動して泣いたら、泣くなと言われた。 |

家庭内の役割 (19件)

| |
|--|
| 男子 |
| 男なのに料理得意なんだって言われたことが昔あった。 |
| 家の家事を母親がやっていることが多い。 |
| 女子 |
| 女だからお客さんにお茶を出したりすること。 |
| 母親が不在の間の家事を「将来に役立つよ」「いいお嫁さんになれないよ」などと言って全て私に任せる父親に違和感を覚えました。 |

| |
|---|
| 女の子なんだから掃除しなさいとか手伝いなさいとか言われて、それに関しては女子も男子も関係なくやるべきことだと思った。 |
| 料理をできなきゃいけないみたいな考えが違和感を感じてうんざりする。 |
| 女性だから洗いをしろと祖母に言われた。兄弟は自分には関係ないと言うようにまったりしているのにムカついた。 |
| 女子だから家事をできるようにしろと言われて、兄は男だからしなくていいと言われていた。 |
| おばあちゃんに女なんだから皿洗ったり洗濯できなきゃやっていけないよと言われた。 |
| 女性なんだから料理作れるようにならなきゃね。 |
| 親戚で集まると女性たちは食事を用意して男性たちはお酒を飲んでいること。 |
| 親戚の集まりで、食事の準備を女性ばかりがやっていたこと。 |
| 女性だから家事をしてと言われたことがある。 |
| 女の子なんだから家事をもっとしなさいとか。 |
| 女の子なんだから料理しないとモテないよと親に言われたこと。 |
| 女性だから料理ができて当たり前みたいなことに違和感がある。 |
| 家事をするのが女性の仕事だと言われて違和感を感じました。 |
| 女性は家事ができなきゃ結婚しても破局されると祖父から言われ、非常に腹が立った。 |
| 母が義理の母にそのようなことを言われていた。テレビでも女性は家事育児、男性は仕事といったことを言われていた。 |
| 周りの協力次第で、両立だってできるはずなのに。親戚の集まりでは女性ばかりが仕事をして、男性がお酒を飲んでゆっくりしていることに違和感を感じた。 |

性別による周囲の対応の違いに対する不平等感 (15件)

| |
|---|
| 男子 |
| 男だからと言って女に怒るのを許されない。 |
| 親に男なんだから女性を守れと言われるけど別にじぶんの身は自分で守ればいやって思う。 |
| 男性には厳しいけど女性には厳しくない時。 |
| 男女間でのトラブルは男性側が責められやすいこと。 |
| 互いに非がある場合でも女性の意見が優先される。 |
| 男性に厳しくするのに女性には優しくする先生がいた。 |
| 小学校の担任が女子と男子の扱い方が違った。 |
| 男性は女子に悪口を言い返してはいけない。 |

| |
|---|
| 女子 |
| 特に小学校で、男子が悪いことをすると、怒られたり親に電話されたりなどするのに女子が同じことをしても流されてるときがあった。 |
| ふざけて注意されるのは男子という考え方が強い。 |
| 女だからと言って、委員長になった時にうまくできるのと言われてたり、部長は男子で、副部長は女子から出してと言われた。 |

| |
|------------------------|
| 入りたかった部活動が男子限定だったこと。 |
| 女だから男にもものを譲れと遠回しに言われた。 |

好きなものについて (11件)

| |
|--|
| 男子 |
| 好きな漫画を読んでいるだけなのに男のくせに女々しいと言われてたり、男子ならもっと堂々としなさいと言われたことがある。 |
| 自分は可愛いものが好きでキーホルダーをつけているが、隣の女子が同じものをつけていてもスルーされるが、男の自分はやたらと視線が向いたり「かわいい」と言われる。 |
| 自分の好みに口を出されることに不満を抱いたことがある。 |

| |
|--|
| 女子 |
| 自分の好きなもの及び趣味の中に特撮ドラマのコンテンツがあるが、それをおかしいものや、変なものとして遠巻きにされていたことが小学校及び中学校時代にありました。 |
| 小さいころから仮面ライダーなどの特撮ヒーローが好きだが、家で見ているとよく祖父に「女の子なのに…」というようなことを言われたことがありモヤモヤした。 |
| たまたま料理とかお絵描きが好きだけなのに女の子らしくていいなって言われた。 |
| 女の子だからかわいいデザインのものの方がいいよねって言われたときは女の子はかわいいものしか持ちちゃダメなの？って疑問に思った。 |
| 趣味でお菓子作りを始めた時に家族に「やっと女の子らしくなってくれた」と言われた。 |
| マスクの色や、スマホの色など女の子なんだから黒はダメといわれた。 |
| ランドセルを選ぶ時女の子だから黒はやめろと言われた。 |

学校生活・勉強・進学など (14件)

| |
|-----------------------------|
| 男子 |
| 先生の態度が男女によって違う人がいるのはどうかと思う。 |

| |
|---|
| 女子 |
| 勉強が好きで、頑張っていたら、女の子はあまり勉強ができるとモテない、そこそこできてればいい、と言われた。 |
| 女子だから男子よりテストの平均点が高いみたいなことを中学校のとき学校の先生が言っていた。 |
| 女に大学進学は必要ないと言われた。 |
| 女の子は文系と言われた。 |
| 制服で、女子はスカート、男子はズボンという校則だったり、男子は髪を伸ばすこと自体が校則で禁じられているのに違和感を感じる。 |

| |
|--|
| 男子がセーターで歩いてても先生注意してなかった。女子がセーターで歩いてたら、ファッションだとか変な目で厳しく見られて注意されるのに男子はそんな目で見られないで注意されにくいのはずるい。 |
| 女子は、ツブロックが校則違反になることに違和感があった。 |
| 学校の校則。髪型など。 |

恋愛・交際（8件）

| |
|--|
| 男子 |
| 女性のデート代おごらなければいけないということが納得できない。 |
| 男性は女性をリードするべき、という暗黙の了解がある。 |
| 男だからって周りから恋バナ振られるのがキツイです。別に彼女とか現段階でいらなと思うてるのに延々と聞かれます。 |

| |
|--|
| 女子 |
| デートとかで男が払うのが基本だという発言を友人からされたとき、男女問わず働いていることに変わりはないし、それぞれ生活があるのだから当たり前というのとは違うのではないかと思った。 |
| 逆に私が彼氏に、「男性が守るべきじゃないの?」「スキンシップは男性がするべきだ。」などという発言をしてしまって後悔している。 |

その他（28件）

| |
|---|
| 男子 |
| tiktokで男性はこうしろ、女性はこうだと決めつけて主張している人がいる。 |
| 経験ではないがAED使う時セクハラと言われるから助けないのはどうなのか。 |
| 「男性だから強くあれ」や、「男なんだから」という言葉を聞くことがある。自分が言われたことはないと思う。 |
| アルバイトをしている時に男なんだからと言われたことがある。 |
| 父親に毎日のように「男性だから・・・」のことを言われている。（それもほぼ同じ内容） |
| 男子だから細かい作業は向いてないと言われたこと。 |
| 親に遠回しに後継ぎについて言われた。 |
| 理系の女子がいると理系女と呼んでいる人がいた。 |
| 周りの環境に恵まれ、男女という括りとはあまり無関係に生きてきた |

| |
|---|
| 女子 |
| 政治についてのニュース番組で「女性初」と大々的に報じられていたとき。 |
| 夜道を歩いていたら、通りすがりの自転車で走っていた男子高校生に、急な大声で驚かされ、女子高生バイバイとバカにするようにそれもまた大声で言って、走り去られたこと。これが男子だったらやらないんだろうなと思った。 |
| 女性なんだから夜道は気をつけなければいけない、ということをいつも親に言われます。たしかにそれも一理あるかもしれませんが、性別関係ないものだとは思いうし違和感には感じます。 |

| |
|--|
| 過去に、自分が気に食わないと、「これだから女は」が口癖の男性がいた。 |
| 運動系の勝負事をした時に相手が男子で、その時私が勝ったことに対して「女子のくせに」と言われた記憶があります。 |
| 家庭科の授業で女子のみんなは結婚とか考えてると思うとか子供とか考えてるよねって言われて不快だった。 |
| 女だから結婚しろと言われるのが違和感だった。 |
| 子供産みたくないって言ったら色良い返事が来なかったこと。 |
| 母親に、「結婚しても子供を産むかは分からない」と言ったら、「子供を産まないなんてもったいない、私は貴方を育てて楽しかった」と言われた。それは個人の考え方の違いではないのか。結婚をするのも、子供を産むのかも、私や将来の夫が決めるものだと思う。 |
| 女の子なんだからと言われたことが何度かあり、そのたびに嫌な思いをしてきました。 |
| 「女は楽でいいな」と言われたこと。 |
| 女の子だから細かい作業もできるでしょ、 |
| 女の子だからといって、完璧でかわいい娘を母から求められる。 |
| 女性だから助けてあげるのようなことがあった。 |
| 女性なんだから女性らしくと言われたこと。 |

本質問項目において、自らの経験だけでなく「自身の考え」が多数寄せられたものを以下に紹介する。

固定的性別役割分担意識に疑問を持つ意見など（26件）

| |
|---|
| 男子 |
| 男性だから〇〇、女性だから〇〇っていう考えを持ちながら生きてる人は幼稚だなと思います。 |
| 男女関係無く平和に上手く共存できる世の中になればいいなと思います。男性だから、女性だからという考え方をやめ助け合って生きていくことが大きな一歩に繋がると私は思います。 |
| 性別に関係なくやりたいことや話したいことは本人の自由に委ね、他人に迷惑をかけ過ぎなければ問題ないと思う。 |
| 僕のお父さんはしっかり働きに出て家にお金を入れているがたまに出る態度に亭主関白的な思想が組み込まれているような気がする。 |
| 性別で決めるのはあまり良くないと思う でも性別によって向き不向きなものもあるから難しい。 |
| 男と女は全体的に見てほぼ差はないと思う。 |
| シンプルに体格の差だったりすると思う。 |
| 男性も女性も協力してやった方がいいです。 |
| 性別は、差別すべきでは、ないと思う。 |
| 自分の経験ではないけれど、～だからというのは違うと思う。 |
| 青森県は高齢者が多いため、偏った考えを持った人が多いと思う。 |
| 偏見すぎて話にならない。 |
| だめだと思う。 |

| |
|---|
| 女子 |
| 実際に体験したわけではないが、女性は仕事か家庭のどちらかしか選べないと言う考え方が社会にあるように感じる。青森が好きで、進学も就職も青森でしたいと考えているけど、将来の自分のキャリアを考えた時に、その風潮によって将来が狭まるのではないかと、自分のやりたいことを全てできないのではないかと不安を感じることがある。 |
| 自分自身が直接してきた経験ではありませんが、学校の活動の中で異性と意見を交流をするときに、そのような先入観がまだあるように思えます。また、お年を召した方がいまだにそのような考えを持っているというようにも感じています。 |
| 性別だけを見て色を決めたり、やる仕事を変えたり、男の人でも髪を伸ばしたい人だっているのに学校では髪を切れと言われてたり聞いたりする事。ジェンダーについて学んでいるのに先生達こそ男だから女だからをなくしてほしい。 |
| 多様性という今の時代に男女差別はよくないと思うし、男女関係なく生活できる環境づくりが必要だと思う。 |
| 男性だから女性だからというのは自分にとっては嫌で、体格差などの違いがあるのはわかるがほぼ平等に接して欲しいなとも思う。 |

| |
|--|
| なんで男だからって仕事終わりに気遣って敬わなきゃいけないんですか？女も子どもも疲れてるのに。 |
| 別にそんな経験はないけど言われてる人を見るとちょっとイラッとしたことはある。 |
| 私に言われたわけではないが、SNSなどでそういった発言を見かけ、複雑な気持ちになった。 |
| 関係なくない？と思う性別で差別されてもって思う。 |
| 偏見は良くないと思う。 |
| なんでそう言われなさいといけないのかわからない。 |
| みんながみんな同じことをできるわけではないということ。 |
| 性別にとらわれずに自分の意志を大切にすることが必要だと思う。 |
| 家事は女性という認識が日本とかはすごいあるなと思いました。 |

固定的性別役割分担意識に肯定的な意見など（13件）

| |
|--|
| 男子 |
| 男には男の、女には女の相応しい態度というものがあるので、男が髪を伸ばすのは女々しいし、逆に女が男のように振る舞う世の中はおかしいと思う。 |
| 偏見だとは思いません。どうしても男性の方が優れていること、女性の方が優れていることがあるので最低限の「区別」は必要だと思います。 |
| 仕事は男の方ができてると思う。日本は男女平等じゃないって言ってるけどできる人が代表になってるだけだと思う。 |
| 男性は論理的に話を進めるのに、女性は感情を軸に話が展開される。これは差別ではなく、生理学的な観点からである。 |
| 最近男尊女卑を改善しようとしすぎるあまり女尊男卑ととれるような場面が増えていっているような気がする。 |
| 言われたことはあるが、自分は男性で生まれてきて良かったと思っているので、最低限男性らしい行動はするべきだと思う。 |
| 今のままでも良いと思う。 |
| 男性が女性を支えるのは生物学的に理想的だ。 |
| 仕方がないと思った。性別による性差はあると感じている。 |
| 別にあっても良いと思う。何から何まで気にする必要はない。 |
| 男性の方がリーダーに向いている人が多いのは事実であると思う。 |

| |
|--|
| 女子 |
| 男性だから女性だからっていう偏見は多いと思うけど少なくともあつてるところはあると思います。 |
| 性の平等が意識され始めてから、逆差別になる言動が増えたように感じるのもそれとの兼ね合いは必要だと思っている。 |

第3章 調査結果のまとめと考察

第3章 調査結果のまとめと考察

本項目では前項目で記載した資料を引用しつつ、更なる考察を行っていくものとする。

3.1 回答者の属性

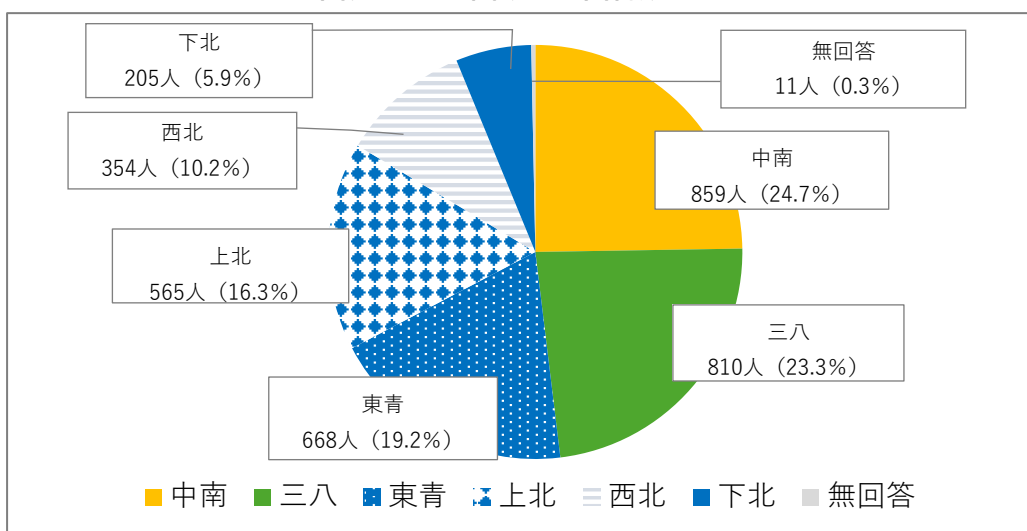
(1) 性別

男性が 52.3%、女性が 45.8% とほぼ男女バランスよく寄せられた。

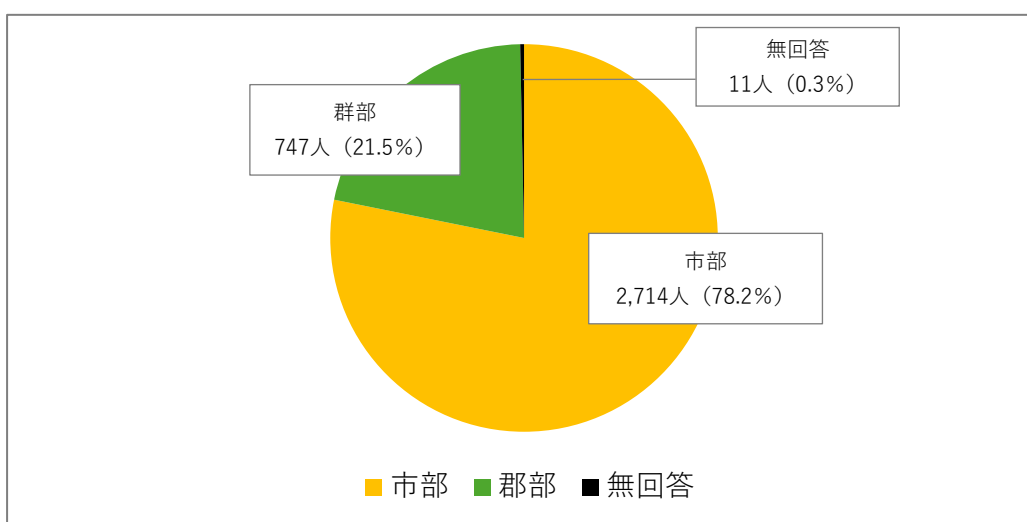
(2) 現在の居住地

40 市町村すべてから回答を得た。

図表 13 6 圏域別の回答数



図表 14 市部・郡部別の回答数



3. 2 家事分担

(1) 家事の中心は依然として母親

家庭において家事（料理・掃除・洗濯など）を主に担っている人について尋ねたところ、「父母どちらも行うが、母の負担が多い」が42.8%で最も多かった。次いで「母のみ」が35.8%、「その他（祖父母、兄弟姉妹など）」が19.6%となった。この結果から、家事の中心が依然として母親に偏っており、伝統的な家族観が根強く残る地域性がうかがえる。

一方で、「父母同じ割合で行う」と回答した生徒が14.6%いたことは、共働き家庭の増加や若い世代を中心としたジェンダー観の変化（家事は夫婦が共同で行うものという考え方が広がりつつあることを示している。家事を「女性の役割」とみならず価値観が徐々に薄れ、夫婦が協力して家庭を運営する意識が見られ始めていると考えられる。

しかし、平等な家事分担はまだ少数派であり、家庭内の役割分担において依然として課題が残っていることも読み取れる。

(2) 家事代行はまだ浸透せず：利用率わずか4%

家事代行サービスや食材宅配サービスの利用頻度については、「利用していない」と回答した家庭が95.8%と非常に高く、これらのサービスは多くの家庭でほとんど利用されていないことが明らかとなった。

青森県は、共働き率が高い一方で、「家事は家庭内でやるもの」「お金を払って頼むのは贅沢」「他人を家に入れるのは不安」などの理由が考えられ、「家事代行」という概念が浸透していないことが推察される。

3. 3 高校卒業後の進路

(1) 進学は県外、就職は県内

① 進学・就職における県内外の希望割合

図表 15 進路別の県内外希望割合

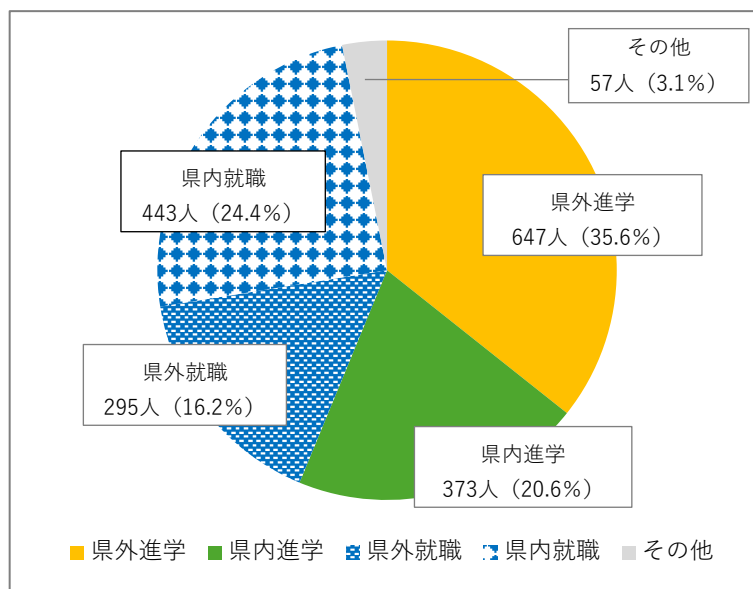
| 進学を希望する回答者の県内外割合 | | | 就職を希望する回答者の県内外割合 | | |
|------------------|-------|------|------------------|-------|------|
| 進学 | 人 | % | 就職 | 人 | % |
| 県外 | 1,414 | 61.8 | 県外 | 414 | 39.0 |
| 県内 | 873 | 38.2 | 県内 | 648 | 61.0 |
| 計 | 2,287 | 100 | 計 | 1,062 | 100 |

高校卒業後の進路について、進学は県外希望が61.8%、県内は38.2%と県外希望が高い一方、就職は県内希望が61.0%、県外が39.0%と県内希望が高く、ほぼ同割合で逆転していることが分かった。

② 進学・就職における男女別希望割合

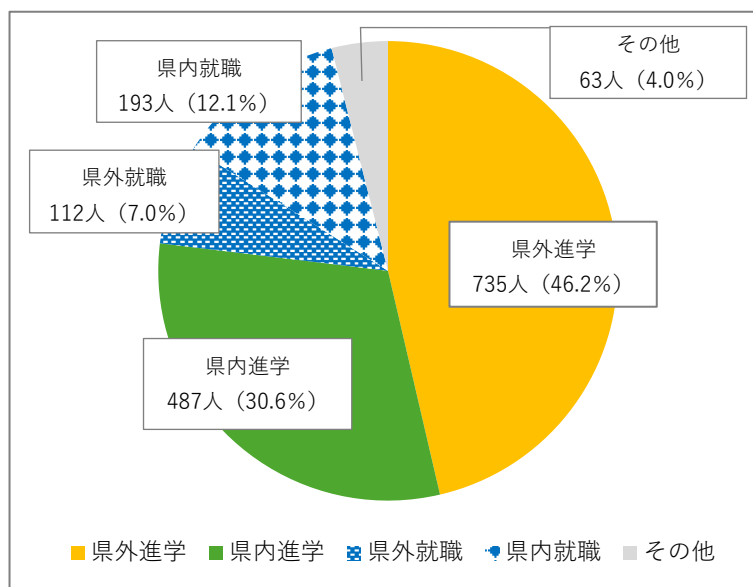
図表 16 高校卒業後の進路(男子)

| 男子 | 人 | % |
|------|-------|------|
| 県外進学 | 647 | 35.6 |
| 県内進学 | 373 | 20.6 |
| 県外就職 | 295 | 16.2 |
| 県内就職 | 443 | 24.4 |
| その他 | 57 | 3.1 |
| 計 | 1,815 | 100 |



図表 17 高校卒業後の進路(女子)

| 女子 | 人 | % |
|------|-------|------|
| 県外進学 | 735 | 46.2 |
| 県内進学 | 487 | 30.6 |
| 県外就職 | 112 | 7.0 |
| 県内就職 | 193 | 12.1 |
| その他 | 63 | 4.0 |
| 計 | 1,590 | 100 |



進学希望率は、男子が56.2%、女子が76.8%であり、女子の方が男子よりも高いことが分かった。青森県ではこの傾向が過去8年間にわたり継続していることも確認された。

(出典：青森県教育委員会 教育政策課「進路状況調査」)

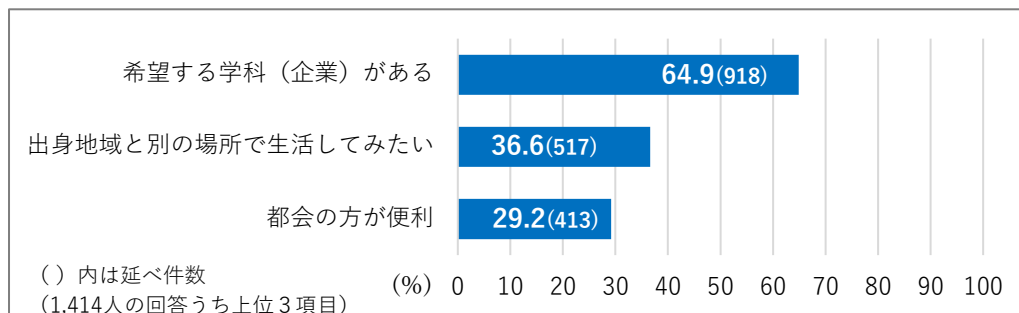
就職、進学を合わせた県外希望の割合は、男子が 51.8%、女子が 53.2%であり、男子より女子の方が高い結果となった。

③ 進学は県外、就職は県内の理由

a 県外進学理由

図表 18 県外進学理由 上位3項目

(複数回答)

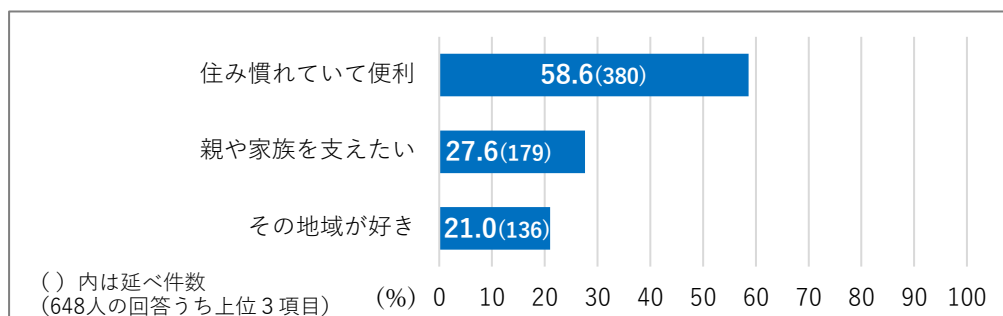


県外進学理由については、「希望する学科がある」が 64.9%と最も高く、次いで「出身地域と別の場所で暮らしてみたい」が 36.6%、「都会の方が便利」が 29.2%と続いた。

b 県内就職理由

図表 19 県内就職理由 上位3項目

(複数回答)



県内就職理由については、「住み慣れていて便利」が 58.6%と最も高く、次いで「親や家族を支えたい」が 27.6%、「その地域が好き」が 21.0%と続いた。

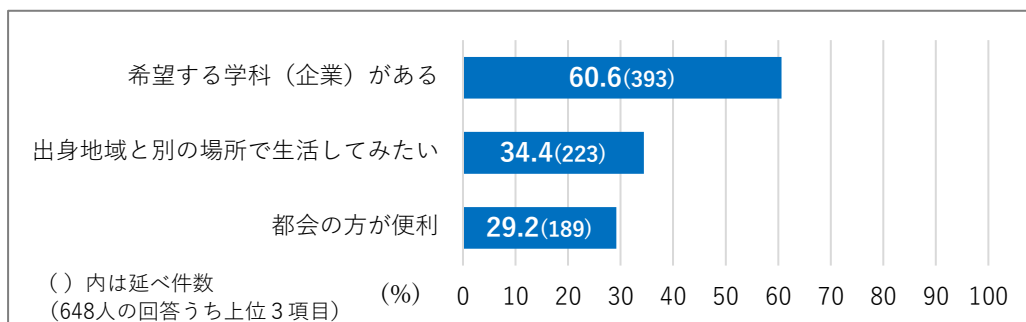
進学における県外志向の強さについては、高等教育機関の選択肢を広げるためと、別の場所で暮らしてみたいという好奇心、都会の便利さを求めての選択であることが読み取れた。

一方、就職における県内志向の強さについては、生活のしやすさと共に、家族の支えになりたいとの想いや地域への愛着が読み取れた。

④ 進路選択における男女の意識差

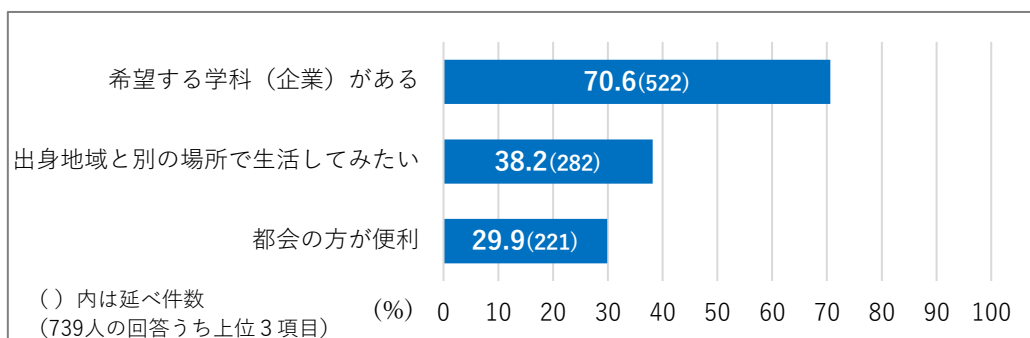
a 県外進学理由

図20 県外進学理由(男子) 上位3項目 (複数回答)



男子の県外進学理由については、「希望する学科がある」が60.6%と最も高く、次いで「出身地域と別の場所で生活してみたい」が34.4%、「都会の方が便利」が29.2%と続いた。

図表21 県外進学理由(女子) 上位3項目 (複数回答)

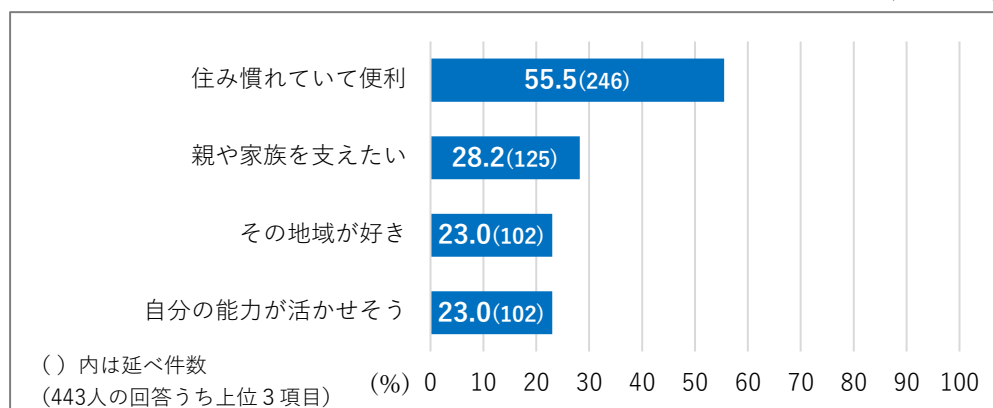


女子の県外進学理由については、「希望する学科がある」が70.6%と最も高く、次いで「出身地域と別の場所で生活してみたい」が38.2%、「都会の方が便利」が29.9%と続いた。

県外進学理由については、男女とも上位3項目の選択理由が同じであったが、女子の方が「希望する学科がある」を選択した割合が10ポイント高かった以外大きな差はなかった。

b 県内就職の理由

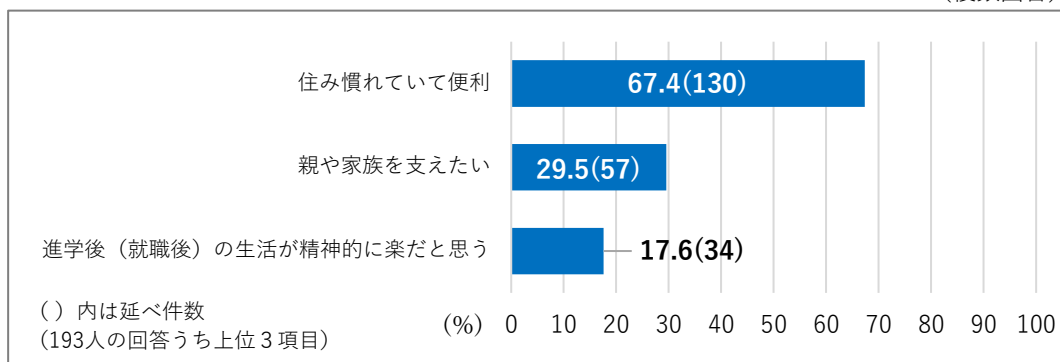
図表 22 県内就職の理由(男子) 上位3項目 (複数回答)



男子の県内就職の理由については、「住み慣れていて便利」が 55.5%と最も高く、次いで「親や家族を支えたい」が 28.2%、「その地域が好き・自分の能力が活かそう」が 23.0%と続いた。

図表 23 県内就職の理由(女子) 上位3項目

(複数回答)



女子の県内就職の理由については、「住み慣れていて便利」が 67.4%と最も高く、次いで「親や家族を支えたい」が 29.5%、「就職後の生活が精神的に楽だと思う」が 17.6%と続いた。

県内就職の理由については、男女とも上位2項目が共通していたものの、3番目の項目に意識の違いがみられた。男子では地域への愛着を示す「その地域が好き」と、地元でのキャリア形成への期待をうかがわせる「自分の能力が活かそう」が挙げられた。一方、女子では、生活環境の変化に対する慎重さがうかがえる「就職後の生活が精神的に楽だと思う」が挙げられた。

c 「自分の希望ではないが、そうせざるを得ないから」の理由

図表 24 「自分の希望ではないが、そうせざるを得ないから」と回答した回答者の希望する進路

| 男子 | 人数 | 女子 | 人数 |
|------|----|------|----|
| 県内進学 | 11 | 県内進学 | 29 |
| 県外進学 | 7 | 県外進学 | 10 |
| 県内就職 | 7 | 県内就職 | 8 |
| 県外就職 | 4 | 県外就職 | 2 |
| その他 | 3 | その他 | 2 |
| 計 | 32 | 計 | 51 |

「自分の希望ではないが、やむを得ずその進路を選択した」と回答した男子が32人、女子が51人で、女子は男子の1.6倍にのぼった。このことから、女子の進路選択には、男子以上に周囲の意向が強く影響する傾向が見られた。

進路先について、男子では「県内進学」が11人と最も多く、次いで「県外進学」7人、「県内就職」7人、「県外就職」4人、「その他」3人であった。県内選択者は18人、県外選択者は11人で、県内を選択した者が多かった。

「やむを得ずその進路を選択した」と回答した人のその他の理由としては、「親や家族を支えたい」が7人と最も多く、「経済的な負担が少ない」が3人で続いた。

一方、女子では「県内進学」が29人と突出して多く、次いで「県外進学」10人、「県内就職」8人、「県外就職」2人、「その他」2人であった。県内選択者は37人、県外選択者は12人で、県内を選択した者が県外の3倍以上にのぼった。

「やむを得ずその進路を選択した」と回答した人のその他の理由としては、「経済的な負担が少ない」が6人で最も多く、「親や家族を支えたい」が3人であった。

これらの結果から、男女ともに「希望ではないが県内を選択する」若者が一定数存在することが明らかとなった。ただし、その理由には性差が見られ、男子は家族支援を優先する傾向が強く、女子は経済的負担の軽減を重視する傾向が見られた。

3. 4 家庭・コミュニティのことに関する男女の意識

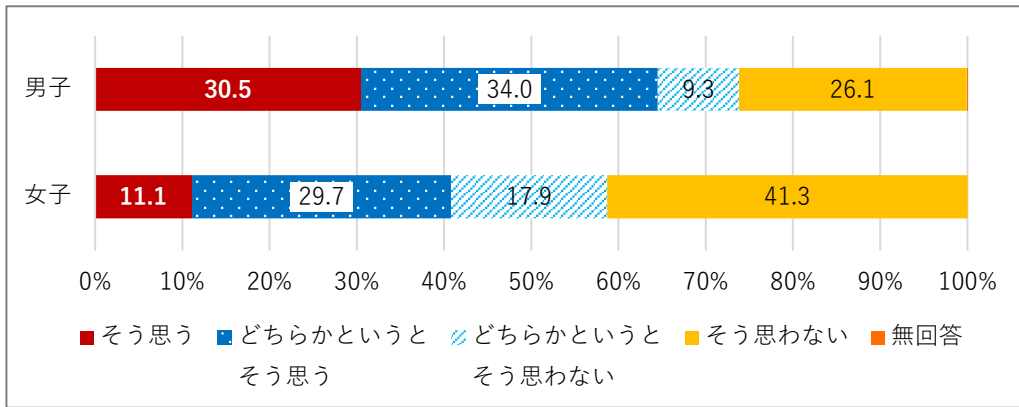
(1) 男女の意識差が表れた項目

① 「そう思う・どちらかというと思う」の割合が高かった項目

a 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

「そう思う・どちらかというと思う」(男子：64.5% 女子：40.8%)

図表 25 「男性は仕事をして家計（生活にかかる費用）を支えるべきだ」 男女比



「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」という項目について、肯定的な回答（「そう思う」・「どちらかというと思う」）をしたのは、男子が 64.5%、女子が 40.8%で、男子の方が 23.7 ポイント高かった。

※ 家庭・コミュニティに関する項目の中で、肯定的な回答が 50%を超えたのはこの項目のみである。

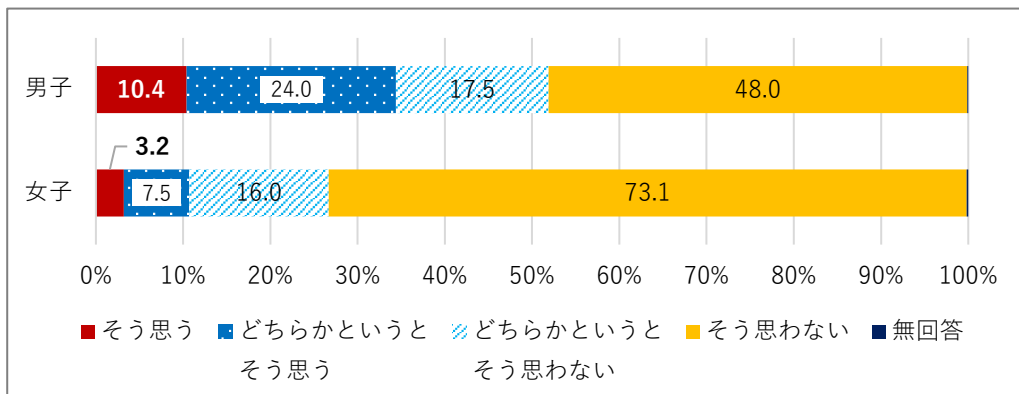
※ 以降、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせて**肯定的**、「そう思わない」「どちらかというと思わない」を合わせて**否定的**と表記する。

男子の約 6 割が肯定的であったのに対し、女子の約 6 割は否定的であった。男子は「家計を支える役割」を担うことへの責任意識が比較的強い一方で、女子はその役割を男性に必ずしも期待していないことがうかがえる結果となった。

② 「そう思わない・どちらかというと思わない」の割合が高かった項目

- a デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
「そう思わない・どちらかというと思わない」
(男子：65.5% 女子：89.1%)

図表 26 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」 男女比

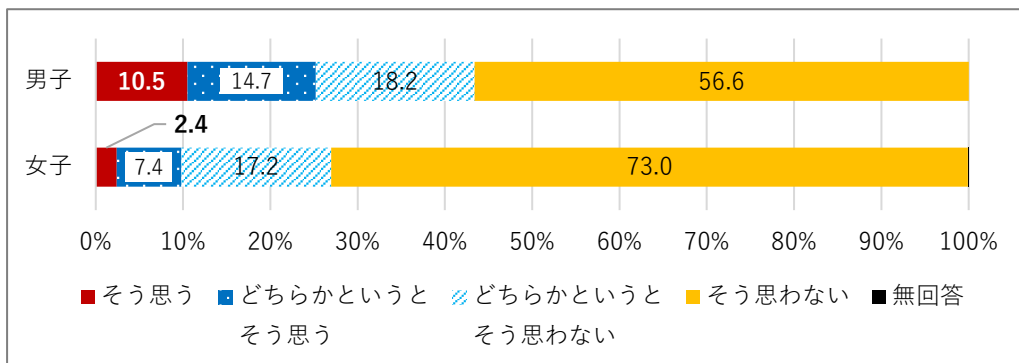


この項目について、男女どちらも否定的傾向が強かったが、女子が男子より23.6ポイント否定的であった。男子の約3割が「負担すべき」と思っているのに対し、女子の約9割は負担を求めていることが分かった。

男子の中に、伝統的価値観や男らしさをアピールしたいという意識が若干残っていることが考えられるが、女子の方はむしろそのような価値観には否定的で、対等な関係を望んでいることが推察される。

- b 男性は結婚して家庭を持って一人前だ
 「そう思わない・どちらかというと思わない」
 (男子：74.8% 女子：90.2%)

図表 27 「男性は結婚して家庭を持って一人前だ」 男女比



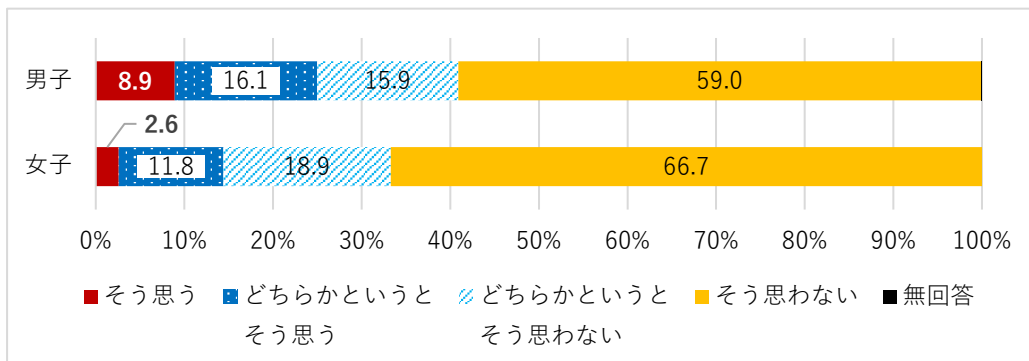
この項目について、男女どちらも否定的傾向が強かったが、女子が男子より15.4ポイント否定的であった。

令和6年度「若者のライフデザインや出会いに関する意識調査」(こども家庭庁)によると、未婚者の50.5%が「結婚することは自然なことである」に当てはまらないと回答しており、結婚について人生の必須条件と捉えていないことが推察される。

そのような中で、「結婚しなければ一人前ではない」という価値観は、男女ともに受け入れられなかったのではないかと考えられる。

- c 家を継ぐのは男性であるべきだ
 「そう思わない・どちらかというと思わない」
 (男子：74.9% 女子：85.6%)

図表 28 「家を継ぐのは男性であるべきだ」 男女比



この項目について、男女どちらも否定的であったが、女子が男子より 10.7 ポイント否定的であった。

青森県は、全国的に見ると家族観が比較的保守的とされる地域であるが、伝統的な家制度的価値観が高校生世代では大きく後退していることが読み取れる結果となった。

男子の 4 人に 1 人が肯定的であったが、「家を継ぐのは息子」という家族や周囲からの暗黙の期待が影響していると捉えることもできる。

③ その他の項目

下記項目については、男女いずれも否定的な考えであることが分かった。

- 「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」
- 「親戚や地域の集まりでは、食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」
- 「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」
- 「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」
- 「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」
- 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」
- 「結婚したら名字を変えるのは女性であるべきだ」
- 「家事（料理・洗濯・掃除等）・育児は女性がするべきだ」
- 「女性は物事を順序だてて考えられない」

3. 5 職場に関する男女の意識

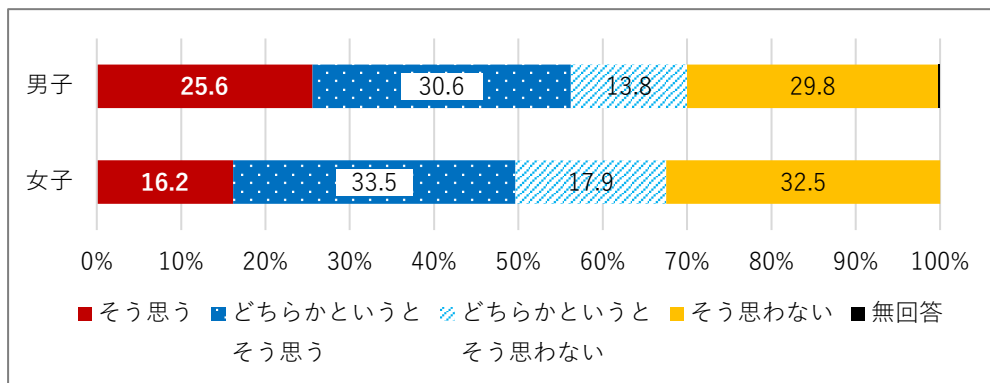
(1) 男女の意識差が表れた項目

① 「そう思う・どちらかというと思う」の割合が高かった項目

a 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない

「そう思う・どちらかというと思う」（男子：56.2% 女子：49.7%）

図表 29 「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」 男女比



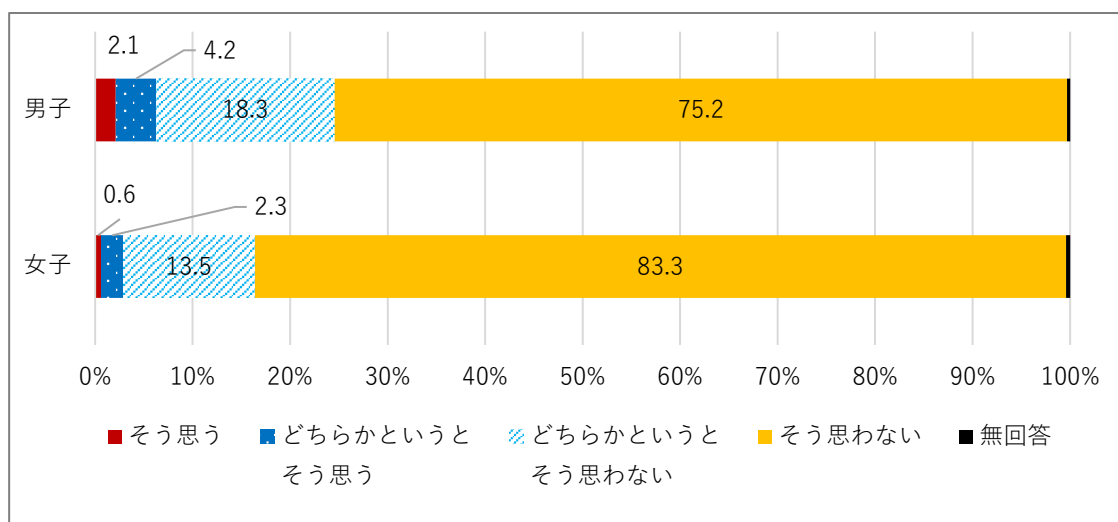
この項目について、男子は女子より 6.5 ポイント肯定的な回答であった。男子の約 6 割が「重要な仕事を担当すべきでない」と考えている一方で、女子の 5 割程度が「育児期間中でも重要な仕事を担当すべきでない」に否定的な回答をしており、男女の意識差がうかがえるとともに、女子の仕事に対する積極的な姿勢が感じられる結果となった。

なお、県の調査によると、育児期間に該当する 30 代女性では 52.2%、40 代女性では 58%が「担当すべきでない」と回答している。これらの結果から、就業経験のない女子高校生と、就業経験を持つ可能性が高い成人女性との間に、一定の意識差が存在することも示された。

②「そう思わない・どちらかというと思わない」の割合が高かった項目

- a 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
 「そう思わない・どちらかというと思わない」
 (男子：93.5% 女子：96.8%)

図表 30 「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」 男女比



女子が男子より否定的な要因として、「男性も育児をするのは当然」という認識がより強いことが推察される。

青森県は、全国的に見ると伝統的な性別役割意識が比較的強い地域とされているが、学校でのジェンダー平等教育及びインターネットや SNS による情報などが、高校生の意識形成に影響しているものと思われる。

3. 6 その他（性格・学校・進路など）の男女の意識

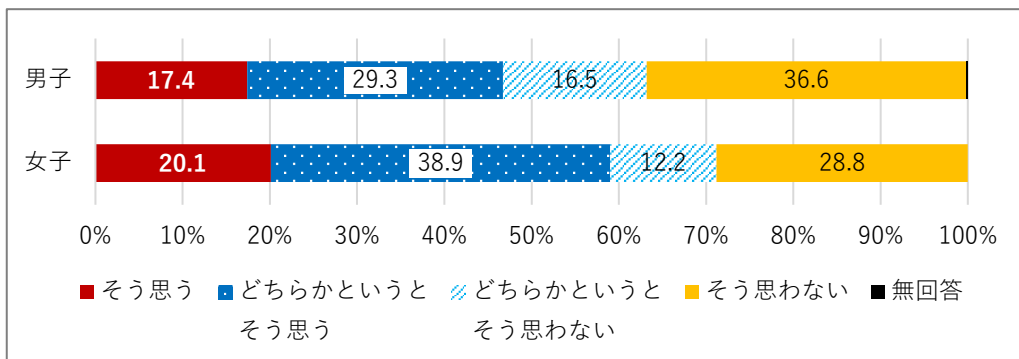
(1) 男女の意識差が表れた項目

①「そう思う・どちらかというと思う」の割合が高かった項目について、男女による違いが表れた項目は以下である。

a 女性は感情的になりやすい

「そう思う・どちらかというと思う」男子 46.7% 女子 59%

図表 31 「女性は感情的になりやすい」男女比



この項目について、女子は男子より 12.3 ポイント高く、男子の約 5 割、女子の約 6 割が肯定しており、女子の方がこのイメージをより受け入れている傾向が読み取れる。

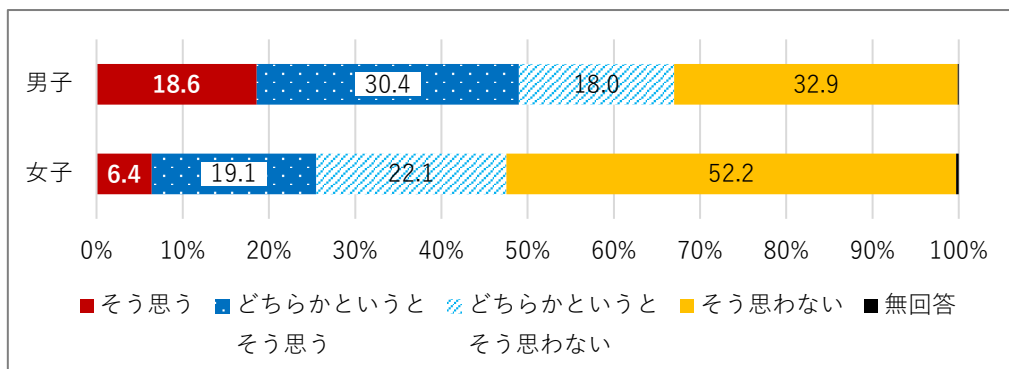
心理学的には、「女性の方が感情的である」という主張には明確な根拠が乏しいとされている。そのため、この結果は、女性自身が「女性は感情的」というステレオタイプを内面化してしまっている可能性を示していると考えられる。

②「そう思わない・どちらかというと思う」の割合が高かった項目について男女の意識の違いを探った。

a 女性がか弱い存在なので、守らなければならない

「そう思わない・どちらかというと思う」男子 50.9% 女子 74.3%

図表 32 「女性がか弱い存在なので、守らなければならない」男女比

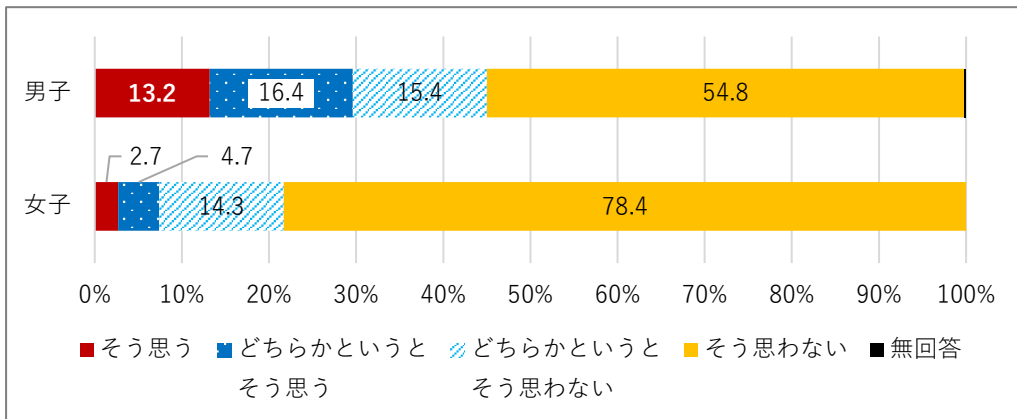


この項目について、女子は男子より 23.4 ポイント否定的な回答であった。男子の半数が「女性=弱い」「男性=強くあるべき」と思っているのに対し、女子の7割以上が自分自身を「か弱い存在」と思っておらず、対等でありたいとの意識が読み取れた。

b 男性は人前で泣くべきではない

「そう思わない・どちらかというと思わない」男子 70.2% 女子 92.7%

図表 33 「男性は人前で泣くべきではない」男女比



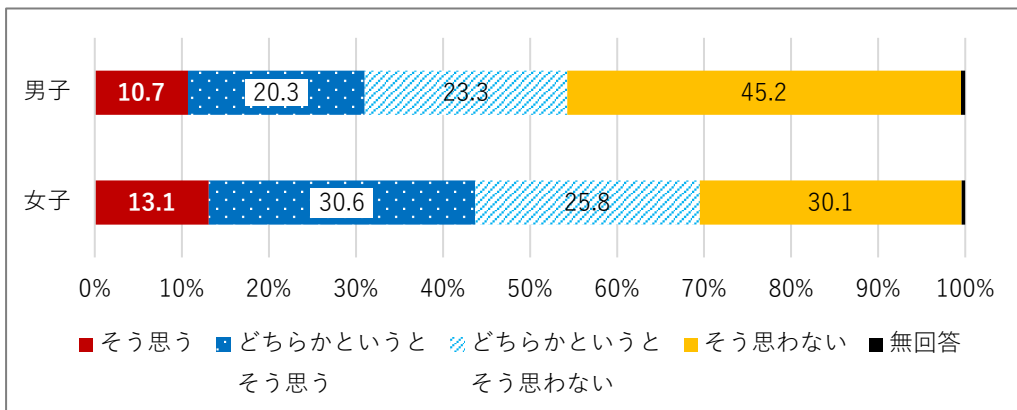
この項目について、女子は男子より 22.5 ポイント否定的な回答であった。男子の方が女子よりこの価値観を支持している理由として、「泣く=弱さ」としての受け止め方が強く、固定的性別役割意識の強い地域性のため、幼い頃からの周囲によるすりこみが影響しているものと考えられる。

一方、女子がこの価値観を否定している理由として、「泣くこと=自由な感情表現」と捉え、男性だけ否定されるべきではないとの認識によるものと考えられる。

c 青森県には女性の活躍できる場が少ないと思う

「そう思わない・どちらかというと思わない」男子 68.5% 女子 55.9%

図表 34 「青森県には女性の活躍できる場が少ないと思う」男女比



この項目について、男子は女子より 12.6 ポイント否定的な回答であった。つまり、女子の方がより「女性の活躍の場が不足している」と感じていることが示された。

この傾向は、青森県における若年女性の県外流出問題とも関連していると考えられる。つまり、「青森県には女性が活躍できる場が少ない」と感じることで、より良い活躍の場を求めて県外へ移動する要因の一つになっている可能性があることが推察される。

なお、県の調査によると、肯定的な回答をした割合は男性が 64.4%、女性が 68.2%で、女性の方が若干肯定的であることが示された。これらの結果から、「青森県には女性の活躍できる場が少ない」と感じている女子高校生は 4 割であったのに対し、成人女性は年代を問わず約 7 割に増えており、年齢層によって意識に差があることが示された。

3. 7 性別に基づく言動

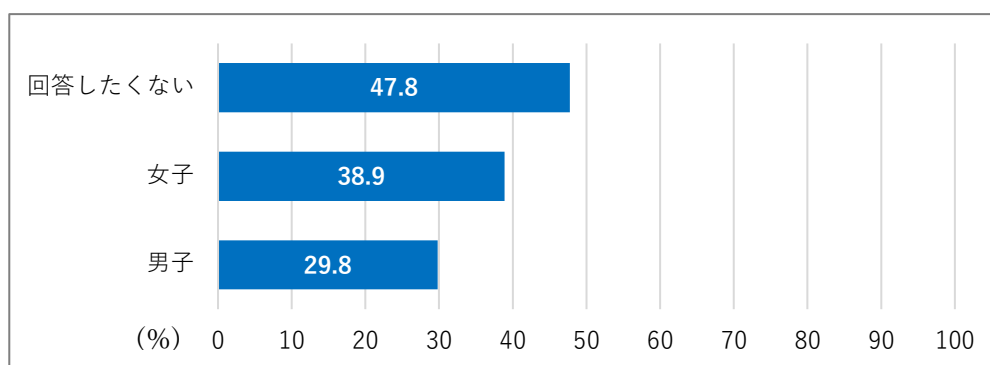
- (1) 性別に基づく役割や偏見を押しつけられたり、そのような場面を見聞きした経験は女子が多い

①性別ごとに「ある」と回答した人の割合

男子 29.8% 女子 38.9% 回答したくない 47.8%

(母数：男子 1,815 人・女子 1,590 人・回答したくない 67 人)

図表 35 「性別に基づく役割や偏見を押し付けられたり、
そのような場面を見聞きした経験がある」男女比



「ある」と回答したのは女子が男子より 9.1 ポイント高く、女子の方が性別役割に対する偏見を受けている可能性が高いことが分かった。属性ごとの各項目で母数が大きく異なるため単純比較はできないが、性別を回答しなかった生徒の約半数が「性別役割の押しつけ経験がある」と答えている。性別に関する嫌な経験や、性自認に揺らぎがあったりする生徒、あるいは多様な性のあり方を持つ生徒が、偏見や押しつけを受けやすい状況に置かれている可能性が考えられる。

(2) 性別に基づく役割や偏見を発信した人物

- ①「男性なんだから」「女性なんだから」と言われた相手の割合が高かったのは「母親」、「祖父母や親戚」、「父親」の順であった。

母親が最も高い理由としては、接触頻度の高さにより発言が多くなること、祖父母や親戚については固定的性別役割分担意識が強いこと、父親については接触頻度の低さによるものであることなどが考えられる。

(3) 身近な生活圏よりデジタル空間による影響大

- ①「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」という情報発信を感じたことがあるもので、最も影響の大きかったものは「インターネット・SNS」で、次はテレビ、ラジオなどの「メディア」であった。

青森県の高校生にとって、身近な存在である学校・地域・家庭よりも、インターネット・SNS・メディアが性別に基づく役割意識を形成する主要な情報源になっていることが分かった。

(4) 「男子は力仕事」「女子は家事」の性別役割分担意識

全体的に一番多かった言動については、「身だしなみ、立ち居振る舞いなど」に関するもので、女子に向けてのものが圧倒的に多かった。

男子に対しては、「男子なら髪を短くしろ」「スキンケアなんていらぬ」「女より筋力がないなんてダサい」などの発言が寄せられた。

一方、女子に対しては、「女の子だからおしとやかに」「上品に振舞って」「髪は長い方が可愛い」「足を閉じて座って」など性別による振る舞いを求める言葉が多く見られた。

男子では、男なんだからという理由で「力仕事を強要された」というものが最も多かった。次いで多かったのは「男だから泣くな」という発言である。痛くても、悲しくても、悔しくても、感動しても泣くなと感情否定された経験が多数寄せられた。「男も涙腺ありますよ」というコメントに、性別に関係なく自分の感情を大切に扱ってほしいという切実な思いが感じられた。

女子では、家庭内の役割に関する指摘も多かった。「女の子なんだから料理ができないといけない」「女性は家事ができるべきだ」「女性だから掃除・洗濯・食器洗いを任される」といった、性別を前提とした役割期待に対する違和感が多く寄せられた。また、親戚の集まりで食事の準備を女性だけが行き、男性は酒を飲んで過ごしていたという場面に疑問を抱いたというコメントも複数寄せられた。

性別による対応の違いについては、男子に厳しく女子に甘い教師の態度、性別を理由に自分の好きなものや行動を否定された経験、さらには校則に対する不公平感などが挙げられた。これらの意見から、性別によって求められる振る舞いや扱われ方に差があると感じている生徒が一定数存在することがうかがえる。

固定的な性別役割分担意識に疑問を呈する意見としては、「性別だけで色を決めたり、担当する仕事を変えたりするのはおかしい。男性でも髪を伸ばしたい人はいるのに、学校では髪を切るように指導されることがある。ジェンダーについて学んでいるのだから、先生たちこそ“男だから”“女だから”という考え方をなくしてほしい」という率直な声が寄せられた。

一方で、「男には男として、女には女としてふさわしい態度があると思う。男性が髪を伸ばすのは女々しく感じるし、逆に女性が男性のようにふるまう社会は違和感がある」という固定的性別役割分担意識を肯定する意見も見られた。

3. 8 まとめ

県外進学・県内就職の逆転現象が示す地域定着の可能性

進路選択の理由については、男女で大きな違いは見られなかった。しかし、進路先の場所に注目すると、進学と就職で明確な違いがあることが分かった。進学では県外を選ぶ傾向が強い一方、就職では県内を希望する割合が高く、男女ともにこの傾向が共通している。このような「県外進学・県内就職」という逆転現象は、将来的な地域定着の可能性を示唆する結果となった。

また、進学率については全国調査と同様に、女子の方が男子より高い結果となった。

男子の方が「固定的な性別役割」を受け入れやすい傾向

全体として、固定的な性別役割分担意識は男女ともに低い傾向が確認された。しかし、「デートや食事の費用は男性が負担すべきである」「男性は結婚して家庭を持って一人前である」「家を継ぐのは男性であるべきだ」「女性はお弱い存在であり、守られるべきだ」「男性は人前で泣くべきではない」といった項目では男女差がみられ、男子の方が“男らしさ”に関する社会的規範をより強く内面化していることが明らかになった。一方、女子はこれらの規範に対するこだわりが弱かった。

職場に関する意識では、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない」という項目のみ、肯定する割合が全体の5割に達した。しかし男女別にみると、男子の約6割が肯定的であったのに対し、女子は半数に満たなかった。このことから、当事者である女子の、育児期間中であっても積極的に仕事に関わろうとする姿勢がうかがえた。

女子は「外見・振る舞い」に関する性別を前提としたイメージを向けられやすい

高校生の日常場面における経験では、男子には「力仕事を任される」「男だから泣くな」といった言動が向けられ、女子には「将来のために家事ができなければ幸せになれない」といった押しつけや、「おしとやかで可愛くあるべきだ」という性別に基づく役割意識が求められていた。これらの要求を不快に感じる生徒が多かったことから、高校生のジェンダー意識が高まり、固定的な性別規範に対する違和感が強まっていると推察される。

若年女性の県外流出の一因

「青森県には女性の活躍できる場が少ないと思う」という項目では、女子の約半数が肯定し、その割合は男子より12.7ポイント高かった。この傾向は、青森県における若年女性の県外流出問題とも関連していると考えられる。すなわち、女性が「活躍の場が少ない」と感じることで、より良い環境を求めて県外へ移動する要因の一つとなっている可能性が高いことが推察される。

周囲の大人の姿や言動が固定的性別役割分担意識を再生産

高校2年生という年齢を踏まえると、今回の調査結果には、家庭・学校・地域・メディアといった日常的な環境を通して学習してきたジェンダー観が強く反映されていると考えられる。日常生活で目にする大人の姿や言動は、固定的な性別役割分担意識を再生産する要因となりやすく、その影響が生徒の意識にも表れている可能性が高い。

調査では、男子には依然として「男らしさ」への拘りが残っていることが示唆された。一方で、女子においては「女らしさ」への拘りが相対的に弱まりつつあることが明らかになった。

固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みをアップデート

青森県は、全国的に見ても保守的な家族観が根強く、地域コミュニティのつながりも密であるため、伝統的な規範が維持されやすい地域であるといえる。こうした環境の中では、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みが、日常生活の中で再生産されやすいと推察される。

今後青森県が多様性を尊重し、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる地域へと変わっていくためには、一人ひとりが自身の中にある固定観念に気づき、それを自分ごととして見直し、アップデートしていく姿勢が求められる。そうした変化の積み重ねが、若者から「ここに住みたい」と選ばれる地域づくりの重要な要因となるのではないだろうか。

参考文献

参考文献

内閣府

- ・子ども家庭庁 “令和6年度 若者のライフデザインや出会いに関する意識調査”
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/3e9fd515-d6c1-416c-86d9-6df71d5213b1/eb02aed7/20241118_councils_lifedesign-wg_3e9fd515_05.pdf (引用日 2026年1月13日)

青森県

- ・青森県統計分析課 “令和6年度 第2回減少対策推進本部会議資料”
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/seisaku/seisaku/files/0730_2_shiryō.pdf (引用日 2025年8月9日)
- ・青森県男女共同参画センター “女性の県外流出に関する調査”
http://www.apio.pref.aomori.jp/gender/news/information/research/joseikengai_2/ (引用日 2025年8月9日)
- ・青森県教育委員会 “高等学校等卒業者の進路状況” 過去8年
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-seisaku/chousa03.html> (引用日 2026年1月20日)
- ・県民活躍推進課 “令和7年度青森県男女共同参画に関する意識調査” (引用日 2026年3月25日)
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kodomo/kenmin/danjoisikityousa.html>

アンケート調査票

【高校生の固定的性別役割分担意識等に関するアンケート】

本調査研究では県内の固定的性別役割分担意識^{※1}やアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)^{※2}の状況を調べ、性別に関わらず生きやすい社会づくりのヒントを得るため、県内の高校2年生のみなさまにアンケート調査を行います。

お忙しいところ恐れ入りますが、下記のアンケートにご協力いただき、ご意見をお聞かせいただけますと幸いです。

※1 固定的性別役割分担意識とは

「男は仕事・女は家庭」のような、個人の能力とは関係なく、性別を理由として役割を分ける考え方のこと

※2 アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)とは

自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」のこと

回答にかかる時間は5分程度です。

【あなたについて】

Q1. 性別

- 男性
 女性
 回答したくない

Q2. 現在の居住地について

| | | | | | | | |
|------|------|-------|-------|------|------|------|-----|
| 青森市 | 平内町 | 今別町 | 蓬田村 | 外ヶ浜町 | 弘前市 | 黒石市 | 平川市 |
| 西目屋村 | 藤崎町 | 大鰐町 | 田舎館村 | 八戸市 | 三戸町 | 五戸町 | 田子町 |
| 南部町 | 階上町 | 新郷村 | 五所川原市 | つがる市 | 鯹ヶ沢町 | 深浦町 | 板柳町 |
| 鶴田町 | 中泊町 | 十和田市 | 三沢市 | 野辺地町 | 七戸町 | 六戸町 | 横浜町 |
| 東北町 | 六ヶ所村 | おいらせ町 | むつ市 | 大間町 | 東通村 | 風間浦村 | 佐井村 |

【家庭生活について】

Q3. あなたの家では、家事(料理・掃除・洗濯など)をする人は誰ですか(複数選択可)

- 父親のみ
 母親のみ
 父と母どちらもやるが、母が多く家事をする
 父と母どちらもやるが、父が多く家事をする
 父と母が同じくらい家事をする
 自分が家事をする
 その他(祖父母、兄弟姉妹など)

Q4. あなたの家では、家事代行サービスや食材宅配サービスを利用することがありますか。

※家事代行サービスとは…家事のプロが依頼者の家庭に訪問し、家事を代わりに行うサービス

※食材宅配サービスとは…特定の食材やミールキット(レシピや、そのレシピに必要な食材、調味料などがセットになった商品)などを定期的に配達してくれるサービス

- 日常的に利用している(週 1 回以上)
- 月 1 回以上利用している
- 数カ月に 1 回程度利用している
- 年 1 回程度利用している
- 利用していない

【今後の居住地について】

Q5. 高校卒業後の進路について

- 県内に進学希望
- 県外に進学希望
- 県内に就職希望
- 県外に就職希望
- その他

Q6. 「Q5 高校卒業後の進路」について、「その他」と回答した方にお聞きします。

その他の内容について差し支えない程度に記入してください。

Q7. 「Q5 高校卒業後の進路」について、「進学」または「就職」を選択した方にお聞きします。

県内または県外を選択する理由として近いものはどれですか。(複数選択可)

- 自分の能力が活かそうだから
- 希望する学科(企業)があるから
- 希望する給与や待遇が期待できるから
- 知人が多いから
- 親や家族を支えたいから
- その地域が好きだから
- 住み慣れていて便利だから
- 進学後(就職後)の生活が精神的に楽だと思ふから
- 物価が安く、経済的な負担が少ないから
- 親と家族の勧めで
- 奨学金を借りているから
- 出身地域と別の場所で生活してみたいから
- 都会の方が便利だから
- 自分の希望ではないが、そうせざるを得ないから
- その他

【あなたの考えについて】

Q8. 家庭・コミュニティのことに関する考え

| | | |
|---|--------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 家事(料理・洗濯・掃除等)・育児は女性がすべきだ | (そう思う/どちらかというと思う/どちらかというと思わない/そう思わない) |
| 2 | 家を継ぐのは男性であるべきだ | (そう思う/どちらかというと思う/どちらかというと思わない/そう思わない) |

| | | |
|----|--------------------------------------|---|
| 3 | 男性は結婚して家庭をもって一人前だ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 4 | 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 5 | 結婚したら名字を変えるのは女性であるべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 6 | 男性は仕事をして家計(生活にかかる費用)を支えるべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 7 | 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 8 | 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 9 | 学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 10 | 女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 11 | 親戚や地域の集まりでは、食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 12 | 実の親、義理の親に関わらず、親の介護(身の周りの世話)は女性がするべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 13 | デートや食事のお金は男性が負担すべきだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |

Q9. 職場に関する考え

| | | |
|----|--------------------------|---|
| 14 | 組織のリーダーは男性の方が向いている | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 15 | 大事な仕事の話合いや交渉事は男性がやる方がいい | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 16 | 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 17 | 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 18 | 受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |

Q10. その他の考え(性格・学校・進路など)

| | | |
|----|--------------------------|---|
| 19 | 女性は感情的になりやすい | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 20 | 女性は物事を順序だてて考えられない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 21 | 男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |

| | | |
|----|----------------------------|---|
| 22 | 男性は人前で泣くべきではない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 23 | 女性には女性らしい感じ取り方がある ものだ | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 24 | 男性より女性の方が思いやりがある | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 25 | 女性はお弱い存在なので、守らなければ ならない | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |
| 26 | 青森県には女性の活躍できる場が少な いと思う | (そう思う／どちらかというと思う／どちらかというと思わない／ そう思わない) |

【性別による役割や偏見を押しつけられたり、そのような場面を見聞きした経験について】

Q11. 周りの人に「男性なんだから」「女性なんだから」と言われたことがある

- ある
ない
覚えていない

Q12. Q11 で「ある」と回答した方にお聞きします。それは誰に言われましたか。(複数回答可)

- 学校の先生
父親
母親
兄弟姉妹
祖父母や親戚
友人(先輩・後輩を含む)
塾や習い事の先生
近所の人
知らない人
その他

Q13. 次の中から「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」という情報発信を感じたことがあるものを選んでください。(複数選択可)

- メディア(テレビ、ラジオなど)
インターネット・SNS
学校の活動
学校外の活動(塾・アルバイトなど)
家庭生活
地域活動
その他
該当なし

Q14. 自由回答

あなた自身が、男性だから・女性だからという理由で偏見だと思われることを言われたり、態度に出されたり、違和感を覚えたりした経験について自由に回答してください。

令和7年度
高校生の固定的性別役割分担意識等
に関する調査報告書
令和8年3月

編集・発行 青森県男女共同参画センター
(指定管理者:未来へつなぐネットあおもりグループ)

住 所 〒030-0822 青森市中央3丁目17-1

電話・FAX 017-732-1085 017-732-1073

E-mail danjokouza@apio.pref.aomori.jp